

第八十三條

第八十四條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等若シ此條例ニ背  
戾スルヲアリテ夫レカ爲メ株主又ハ其他ノ人へ損失ヲ受ケシムル  
キハ其損失ハ頭取取締役等之ヲ辨償スルノ責ニ任スヘシ

第八十五條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員  
タル者ハ銀行所有ノ金銀及ヒ諸証書預リ品等ヲ私用シ又ハ窃掠シ  
又ハ之ヲ妄用スヘカラス又頭取取締役ノ承認ヲ得スシテ銀行紙幣  
及ヒ預リ証書ヲ發行シ又ハ諸貸附ヲ爲シ爲換手形ヲ振出シ又ハ証  
書及ヒ切手ノ引受ケヲ爲シ約束手形爲換手形諸証書質物及ヒ公裁  
ニテ引取リタルモノヲ賣渡スヘカラス又銀行ノ諸簿冊計表報告書  
其他ノ要書ニ詐偽ヲ記載スヘカラス○若シ右ノ箇條ヲ犯シテ其銀  
行又ハ他ノ銀行會社其他ノ者ヲ損害欺瞞シ又ハ其銀行ノ役員或ハ  
故サラニ検査官員ヲ欺カント謀ル者ハ皆國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第八十六條

此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員  
ハ社中申合規則ノ規定ニ從ヒ尋常借り得ヘキ金額ノ外自身又ハ仲  
人等ヲ以テ一切銀行ヨリ借受ク可カラス又其銀行ヨリ借財ヲ爲ス  
者ノ爲メ其証人又ハ受人ト爲ルヘカラス○若シ右等ノ役員右ノ規  
定ニ背戾シテ借財ヲ爲シ又ハ証人受人ト爲リ又ハ人ヲシテ之ヲ爲  
サシメ又ハ之ヲ承諾スル等ノ事アルキハ此等ノ役員ハ拾圓ヨリ少  
ナカラス五拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ且其借財ノ金額ハ  
其規定ニ背戾セシ者ヨリ速カニ銀行へ返濟スヘシ

第八十七條

此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員  
タル者ハ其銀行ノ名ヲ假リ以テ自己ノ利益ヲ謀ルハ勿論總テ私用  
ヲ辨スヘカラス若シ此等ノ役員之ヲ犯シ又ハ人ヲシテ犯サシメ又  
ハ知テ之ヲ見逃ス者ハ皆國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

○第十一章 紙幣及ヒ諸手形類ノ發行並ニ銀行紙幣ノ製造描改



及ヒ其版板彫刻等禁止ノ事ヲ明カコス

第八十八條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル國立銀行ヲ除クノ外何人又ハ何會社ヲ論セス凡テ紙幣又ハ望次第持參人ヘ仕拂フヘキ約束手形又ハ右類似ノ証書其他政府發行ノ貨幣同様ニ通用スヘキ諸手形又ハ切手ヲ振出シ其引受ヲ爲シ之ヲ製シ之ヲ發行スルヲ禁ス若シ此等ノ數件ヲ犯ス者アルニ於テハ何人ヲ論セス皆國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第八十九條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行スル銀行紙幣ハ何人ヲ論セス之ヲ贋造スヘカラス贋造セシムヘカラス贋造スルヲ助ケ又ハ之ヲ勸ムヘカラス贋造ト知テ之ヲ通用スヘカラス又ハ之ヲ通用セシムヘカラス又其文字繪圖ヲ描改スヘカラス描改セシムヘカラス描改スルヲ助ケ又ハ之ヲ勸ムヘカラス描改セシ紙幣ト知テ之ヲ通用スヘカラス又ハ之ヲ通用セシムヘカラス

第九十條 右銀行紙幣ヲ印刷スルニ用フル所ノ版板又ハ之ニ類似スル者ハ之ヲ私ニ彫刻スヘカラス又ハ私ニ彫刻ヲ命スヘカラス又右銀行紙幣ニ用フル所ノ紙品又ハ之ニ類似スル紙品ハ之ヲ私ニ製スヘカラス又ハ人ヲシテ之ヲ製セシムヘカラス又ハ之ヲ私ニ所持スヘカラス若シ前第八十九條及ヒ本條ノ數件ヲ犯ス者アルニ於テハ皆國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第九十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行シタル銀行紙幣又ハ爲替手形約束手形其他証書ノ類ハ何人ニ限ラス之ヲ切抜キ又ハ切裂キ又ハ剝去リ又ハ塗抹シ又ハ孔ヲ穿チ又ハ糊付ニスル等ノ一ヲ爲スヘカラス又人ヲシテ此等ノ事ヲ爲サシムヘカラス若シ此等ノ數件ヲ犯ス者アルキハ其裁判所又ハ府縣ノ聽斷主任官員ニ於テ之ヲ裁判シ其金高十倍ノ償金ヲ銀行ヘ拂ハシムヘシ

○第十二章

○第二十三章會社○第三節國立銀行



第九十二條

但シ預リ金ノ返却ヲ拒ミ又ハ怠リタルモ亦其預ケ主タル者ハ本條ニ準シテ申請スルヲ得ヘシ

第九十三條

第九十四條

第九十五條 前條ノ如ク營業ヲ差止メラレタル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員ハ諸手形諸証類又ハ抵當物地所等ヲ他人ヘ譲リ渡シ又ハ賣渡スヘカラス又他人ヨリ金銀其他ノ物件ヲ預ルヘカラス若シ頭取取締役支配人其他ノ役員等此箇條ニ背キ或ハ譲リ渡シ又ハ賣渡シ又ハ預リ又ハ拂方ノ引受ヲ爲スコアルニ於テハ紙幣頭ハ督促シテ其金額ヲ償ハシメ之ヲ其元ニ復セシムヘシ

第九十六條 紙幣頭ハ更ニ大藏卿ヘ稟議シ特例ノ監督役ヲ命遣シ其銀行ノ實際諸般ノ取扱ヲ推究シテ其事實ヲ詳明ニ報知セシムヘシ

而シテ其背戻ノ事實相違ナキニ於テハ紙幣頭ハ其銀行ヨリ出納寮ニ預ケ置キタル公債証書ヲ没入スヘキ旨ヲ(右報知ヲ得タル日ヨリ三十日以内ニ)申渡シ其公債証書ヲ取上クヘシ

第九十七條 右諸般ノ手續アリシ後チ紙幣頭ハ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ凡ソ此銀行ノ紙幣ヲ所持スル者ハ都テ之ヲ大藏省ニ出シテ其引換ヲ乞フヘキ旨ヲ公告シ相當ノ時日ヲ以テ之ヲ引換遣ハスヘシ而シ其引換タル紙幣ハ總テ此條例第五十一條ノ手續ニ從ヒ之ヲ燒捨テ其趣ヲ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ世上ニ公告スヘシ

第九十八條

第九十九條 此條例第九十六條ニ掲クル所ノ特例監督役ノ報知ヲ得之カ處分ヲ爲スニ於テハ紙幣頭ハ即チ右銀行ノ跡引受人ヲ命シ其銀行ノ諸簿冊及ヒ各種ノ資産等ヲ取押ヘ諸貸付金立替金ヲ取立テタル上ニテ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)ニ謀リ貸金類及ヒ銀



行ノ所有物ヲ賣拂ヒ其集合金ヲ以テ其銀行ノ諸借財又ハ預リ金其外ヲ償却シ過金アレハ株高ニ應シテ之ヲ株主ヘ割返シ不足アレハ都テ銀行ノ株高及ヒ其所有物ヲ限リテ相當ノ分散ヲナサシムヘシ

第百條 右借財又ハ預リ金等ヲ償却スルニハ紙幣頭ヨリ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ三ヶ月間世上ニ公告シ其銀行ニ貸金預ケ金等アル者ハ右時限中ニ申出テシメ其事由ト証據類トヲ檢按シ紙幣頭ハ厚ク之ニ注意シ適正ノ處分ヲ貸方ニ賦當償却スヘシ

第百一條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ノ株主等ハ假令ヒ其銀行ニ損失又ハ其他ノ事故アリテ其銀行鎖店分散スルコアルモ其株主等ハ其創立証書ニ於テ掲載シタル株式金額ノミヲ損スルノ外其鎖店分散ニ付テ別ニ賦當出金ヲ受クルノ責メ無カルヘシ

第百二條 紙幣頭ハ此條例第九十六條ニ掲クル所ノ處分ヲ爲スニ際シ其銀行ヨリ尙ホ請願スルコアリテ其情實ヲ具陳スルモハ監督役

ヲ出セシ日ヨリ三十日以内(郵便遞送日數ヲ除ク)ナラハ其地方官廳ニ謀リ更ニ其實況ヲ詳悉シテ全ク其背戻セサルノ實証アルニ於テハ紙幣頭ハ之ヲ大藏卿ヘ稟議シ而シテ之ヲ宥恕スヘシ尤右ノ請願書ハ必ス其地方官廳ヲ經テ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ但シ此宥恕ヲ爲スモハ紙幣頭ハ速カニ其趣ヲ出張ノ監督役ニ達シテ暫ク其處置ニ取掛ルコトヲ見合せシムヘシ

第百三條

第十三章 銀行平穩鎖店ノ手續及ヒ其紙幣引換方等ノ事ヲ明カニス

第百四條 此條例ヲ遵奉スル銀行三分二以上ノ株主等ノ協議ニ從テ平穩ニ分散又ハ鎖店セントスルニハ其銀行ノ頭取支配人ヨリ其銀行ノ名印ヲ以テ其決議ノ旨趣ヲ紙幣頭ニ申牒シ其承認ヲ得テ後三ヶ月間新聞紙其他ノ手續ヲ以テ世上ニ公告シ發行紙幣ノ引換方



其他銀行ニ屬スル取引ノ精算ヲ詳載シタル報告ヲ製シテ之ヲ世上ニ公告スヘシ

第百五條 右ノ公告ヲ爲シタル日ヨリ其銀行ハ其引換ヘタル銀行紙幣ヲ以テ豫テ出納寮ニ預ケ置キタル公債証書ノ内ヲ取戻スヲ得ヘシ尤モ其公告ノ日ヨリ半年ヲ過キ其銀行ノ簿冊上ニ於テ尙ホ世上ニ殘在スル銀行紙幣アルニ於テハ其員額丈ケノ通貨ヲ出納頭ニ差出シ右預置キタル公債証書ノ全額ヲ取戻スヲ得ヘシ然ル上ハ其銀行紙幣ノ世上ニ殘在スル分ハ大藏省ニ於テ之ヲ引換ヘ銀行ノ株主等ハ一切其引換ノ責ニ任セサルヘシ

第百六條 右領店シタル銀行ヨリ其殘在銀行紙幣引換ノ爲メ通貨ヲ差出スニ於テハ出納頭ハ之ヲ領受シ其趣ヲ詳記シタル受取証書ヲ製シ之ヲ其銀行ヘ下付スヘシ

但シ出納頭ハ右受取証書ノ外ニ預リ証書ヲ製シテ之ヲ紙幣頭ヘ

回附シ置キ其殘在銀行紙幣引換ノ爲メ右通貨ノ受取方ヲ要スルニ於テハ何時ニテモ之ヲ紙幣頭ヘ渡スヘシ

第百七條 右預リ証書ヲ領受スルニ於テハ紙幣頭ハ大藏卿ノ稟議ヲ經テ相當ノ期限ヲ定メ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告シ其殘在銀行紙幣ノ引換方ニ從事スヘシ

第百八條 右ノ手續ヲ以テ引換タル銀行紙幣ハ此條例第五十一條ノ規定ニ從テ之ヲ燒捨シ其趣ヲ世上ニ公告スヘシ尤右ニ屬スル諸計算其外トモ紙幣頭國債頭出納頭ハ各其簿冊ニ詳記シ置クヘシ

○第十四章 銀行訴訟ノ取扱及ヒ罰金處分ノ事ヲ明カニス  
第百九條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行若シ他ノ會社又ハ一般ノ人民ヲ相手取り訴訟スルカ又ハ他ヨリ此銀行ヲ相手取り訴訟セラル、カノキハ都テ一般ノ訴訟法ニ從ヒ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)之ヲ裁判處分スヘシ



第一百十條 此條例ニ於テ規定セル罰金ヲ以テ處置スヘキ罪科ニ付テハ裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)之ヲ裁判處分スヘシ但シ此條例中現ニ罰金ノ明文無キ箇條ヲ犯スコアルモハ其時ニ當リ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)ニ於テ相當ト思考スル罰金(三圓ヨリ少ナカラズ五十圓ヨリ多カラサル額數)ヲ右犯罪ノ銀行又ハ頭取取締役其他ノ役員ニ命スヘシ

○第十五章 銀行納税ノ事ヲ明ニス

第一百一十條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ハ追テ政府ニ於テ制定施行スル所ノ收税規則ニ遵ヒ相當ノ税金ヲ納ムヘシ

○明治十一年九月二十八日

第二十九號

明治九年(八月)第百六号布告國立銀行條例第十五章税額ノ儀ハ銀行紙幣下付ノ千分ノ七ト相定メ本年七月ヨリ年々徵集候條此旨布告候事

但納期ノ儀ハ一ケ年兩度ニ割合前半ケ年分ハ七月三十一日限り後半年分ハ一月三十一日限り其管轄廳ヘ可相納事

○第十六章

第一百十二條

○明治十六年五月五日

第十四號

明治九年(八月)第百六號布告國立銀行條例中左ノ通改正加除ス

第十二條 此條例ヲ遵奉シテ創立スル銀行ハ鎖店其他ノ事故アルニ非レハ開業免狀ヲ受ケン日ヨリ二十ケ年ノ間其營業ヲ繼續スルコトヲ得ヘシ右期限後ハ更ニ私立銀行ノ資格ヲ以テ大藏卿ノ許可ヲ受ケ其營業ヲ繼續スルコトヲ得ヘシ然レモ紙幣發行ノ特許ヲ有シ國立銀行ノ資格ヲ以テ營業ヲ繼續スルコトヲ許サス

第二十條 此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其紙幣下付高四分ノ一ニ相當ス



ル通貨ヲ以テ發行紙幣引換ノ準備ニ充ツヘシ

第二十二條 削除

第二十七條 但書削除

第四十九條 此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣ヲ通貨ト引換ヘンコトヲ請求スルモノアルハ日本銀行ニ於テ之ヲ引換フベシ

第六十一條 此條例ヲ遵奉スル銀行ニ於テ預リ金ノ返濟又ハ爲替手形約束手形等ノ仕拂ヲ爲スニ當リ兼テ積置キタル準備金ヲ以テ之ヲ償フコト能ハサルハ其銀行ノ株主等ハ各其所持ノ株數ニ應シ別ニ出金シテ一時之ヲ償辨スルノ責ニ任スヘシ但此出金ハ全ク一時償辨ノ爲メニシテ其株金ト異ナルヲ以テ其銀行ハ速カニ之ヲ各株主ヘ返辨スベシ

○第八章 利益金分配ノ方法ヲ明カニス

第七十九條 此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等ハ每半季其銀行ノ總勘定ヲ爲シ其總益金ノ内ヨリ諸雜費并ニ損失補償ノ金額及ヒ滯貸金ノ準備ヲ引去リ其餘ヲ以テ純益金ト爲シ之ヲ總株主ヘ分配スベシ尤モ右利益ノ計算ハ株主ニ分配セサル前十日以内ニ郵便遞送日數ヲ除ク大藏卿ヘ差出シ其承認ヲ得テ後之ヲ株主一同ヘ通知シ且新聞紙ヲ以テ世上ニ公告シ而シテ之ヲ株主一同ヘ分配スベシ但借カナル抵當物或ハ確實ナル引受人アル貸附金ヲ除クノ外其返濟期限ヲ過クルコト六ヶ月以上ニ及フモノハ都テ之ヲ滯貸金ト看做スベシ

第八十條 削除

第八十三條 國立銀行ノ役員タル者諸相場ニ關シ投機ノ商業ニ從事シ危險ナリト認ムルキハ大藏卿ハ銀行ニ命シ其役員ヲ退職セシムルコトアルヘシ

○第二十三章會社○第三節國立銀行



○第十二章 官命鎖店ノ場合特例監督役跡引受人等ノ取扱方並

ニ公債証書ノ没入及ヒ紙幣引換等ノ手續ヲ明カニス

第九十二條 削除

第九十三條 國立銀行ニ於テ左ニ掲クル事實アルハ大藏卿ハ鎖店

ヲ命スルコアルヘシ

第一 國立銀行條例ノ旨趣又ハ箇條ニ背戾シ大藏卿共銀行ヲ鎖店

セシムルヲ相當ナリト思考スルキ

第二 國立銀行ニ於テ負債辨償ノ義務ヲ尽ス能ハサル証據アルキ

第三 國立銀行ニ於テ其資本金總額十分ノ五以上ノ損失ヲ生スルハ

第九十四條 前條ニ記載スル事實アリト認ムルキハ大藏卿ハ檢査ノ

官員ヲ派遣シ其事實ヲ推糺セシメ若シ相違ナキニ於テハ都テ其銀

行ノ營業ヲ差止メ金銀其他ノ出納ヲ禁スヘシ

第九十八條 此條例第九十六條ニ據リ其銀行ヨリ没入シタル公債証

書ハ大藏省ノ便宜ニ從ヒ之ヲ公賣若シハ私賣シ以テ其銀行ノ發行紙

幣引換ノ資ニ充ツルモノトス但右公債証書ノ賣却代價紙幣下付高

ニ對シ不足アルハ大藏卿ハ他ノ債主ニ先チ之ヲ其銀行ノ資産ヨ

リ徵收シ若シ下付高ニ對シ過剩アルキハ之ヲ其銀行ニ下付スヘシ

第百三條 此條例ヲ遵奉スル銀行鎖店ノ場合ニ於テ跡引受人ノ入費

等ハ總テ相當ノ處分ヲ大藏卿之ヲ取極メ他ノ債主ニ先チ其銀行ノ

資産ヨリ之ヲ辨償セシムヘシ

○第十六章 銀行紙幣消却ノ方法ヲ明カコス

第百十二條 此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行シタル紙幣ハ左ニ

掲クル方法ヲ以テ其營業年限内ニ悉皆消却スヘキモノトス但其取

扱手續ハ大藏卿之ヲ定メ日本銀行ヲシテ從事セシムヘシ

一各國立銀行ノ紙幣引換準備金ハ大藏卿ノ指定スル期限迄ニ日本

銀行ニ納付シ營業年限内之ヲ定期預ケト爲シ以テ紙幣消却ノ元



資ヲ充ツハシ

一各國立銀行ハ每半季利益金ノ多少ニ拘ハラズ其銀行紙幣下付高  
 ニ對シ年二分五厘即チ半季一分二厘五毛ニ當ル金額ヲ引去リ之  
 チ日本銀行ニ預ケテ紙幣消却ノ元資ニ充ツヘシ

一日本銀行ハ前二項ニ掲クル金額ヲ預リ各國立銀行ト別段ノ約定  
 ナ結ヒ之カ發行紙幣ヲ消却シテ大藏省ニ上納スルモノトス但其  
 約定書ハ大藏卿ニ呈シテ之カ與書証印ヲ受クヘシ

一日本銀行ヨリ右消却紙幣ヲ上納シタルキハ大藏省ニ於テ此條例  
 第五十一條ノ手續ニ從ヒ之ヲ撻捨テ其都度之ヲ公告ス可シ

一日本銀行ヨリ右消却紙幣ヲ大藏省ニ上納シタルキハ豫テ出納局  
 ニ差出シ置キタル紙幣抵當公債証書ノ内右消却高ニ相當スル員  
 額ヲ大藏省ヨリ直ニ其銀行ニ還付スヘシ

○第十六章 第十七章ト改ム

第一百十二條第一百十三條ト改ム

國立銀行成規

○銀行創立手續ノ事

第一條 此條例ヲ遵奉シテ國立銀行ヲ創立セントスルコハ先ツ五人  
 以上ノ人員申合セ國立銀行創立致シ度趣ヲ願書ニ認メ之ヲ大藏省  
 ノ紙幣寮ニ差出スヘシ此願書ニハ其銀行ノ營業場所資本金額等ヲ  
 簡明ニ記載シ請願人一同之ニ記名調印スヘシ而シテ其之ヲ差出スニ  
 ハ請願人直チニ之ヲ紙幣寮ニ持參スルカ又ハ遠隔ノ地方ナレハ郵  
 便ヲ以テ之ヲ送達スルモ苦シカラス

但シ此資本金高ノ五分一ハ首トシテ其發起人等ヨリ之ヲ出金シ  
 若シ不足アラハ自餘加入ノ者ヨリ其引請ケントスル株式金額ノ  
 若干ヲ出金セシムルヲ以テ常則トス

第二條 右五人以上ノ人員ハ即チ發起人ニシテ株金ノ募方(若シ之ア

○第二十三章會社○第三節國立銀行



ラハ)並ニ取締役ノ撰舉等相濟ム迄ハ都テ銀行ノ事務ヲ擔當辦理ス  
ルモノトスヘシ

第三條 紙幣頭ハ右願書ヲ受取ラハ其發起人等ノ身分其外トモ隱密  
ノ探索ヲ遂ケ且其管轄地方官廳ニ其者共ノ身分營業ノ模様其外ト  
モ公然諮問ヲ爲シ銀行創立ヲ許可スルニ相當ナリト思考スルニ於  
テハ右發起人等ニ創立證書並ニ銀行定款ノ差出方ヲ命スヘシ

第四條 右紙幣頭ノ命ヲ受クルニ於テハ其發起人等ハ株主ノ募方(若  
シ募ルヘキアラハ)ニ取掛ルヘシ而シテ株主一定ノ後ハ直チニ集會  
ヲ催シ首メコ(入札公撰ヲ以テ)取締役五人以上ヲ撰舉シ此内ヨリ(前  
同断ノ方法ヲ以テ)頭立タルヘキ人ヲ定メ然ル後チ創立證書並ニ銀  
行定款ヲ遅クハ三ヶ月以内ニ郵便遞送日數ヲ除ク)之ヲ紙幣頭ヘ差  
出スヘシ若シ右期月内ニ此差出方ヲ怠ルルハ前段ノ許可ハ取消タ  
ルヘシ

第五條 右創立證書ノ雛形ハ左ノ如シ

一 國立銀行創立證書

大日本政府ヨリ發行スル所ノ公債證書ヲ抵當トシテ銀行紙幣ヲ發  
行シ之ヲ通用シ之ヲ引換フル儀ニ付明治十一年一月一日大日本政府  
ニ於テ制度施行シタル國立銀行條例ヲ遵奉シテ國立銀行ヲ創立シ  
其業ヲ經營セント謀リ私共即チ此創立證書第五條ニ連署シタルモ  
ノ一致協力シテ當銀行ヲ創立シ左ノ創立證書ヲ取極メ候也

第一條 當銀行ノ名號ハ一 國立銀行ト稱スヘシ

第二條 當銀行ノ本店ハ一(府縣)管下第一大區一小区一(町村)一番  
地ニ於テ設置スヘシ

但シ支店ヲ置クハ其場所ヲモ茲ニ掲載スヘシ

第三條 當銀行ノ資本金ハ一萬一千圓ニシテ一(百五十廿五)圓ヲ  
以テ一株ト爲シ總計一株ト定ムヘシ







第七條 右銀行定款ノ離形ハ左ノ如シ

一 國立銀行定款

大日本政府ヨリ發行スル所ノ公債證書ヲ抵當トシテ銀行紙幣ヲ發行シ之ヲ通用シ之ヲ引換フル儀ニ付明治一年一月一日大日本政府ニ於テ制定施行シタル國立銀行條例ヲ遵奉シ當銀行ヲ創立スル爲メ株主一同協議ノ上決定スルノ條々左ノ如シ

銀行名號ノ事

第一條 當銀行ノ名號ハ一 國立銀行ト稱スヘシ

本支店設置ノ事

第二條 當銀行ノ本店ハ一(府縣)管下第一大區一小区一(町村)一番地ニ於テ設置スヘシ

(但シ支店ヲ置クハ其場所ヲモ茲ニ掲載ス可シ)  
資本金ノ事

第三條 當銀行ノ資本金ハ一萬一千圓ニシテ一(百五十廿五)圓ヲ以テ一株トナシ總計一株ト定ムヘシ

但シ國立銀行條例ノ規定ニ從ヒ株主等ハ其所持株數ノ割合ニ準ジテ此資本金ヲ増減スルヲ得ヘシ尤モ増加ノ節ハ時宜ニヨリ新ニ株主ヲ募ルコトアルヘシ

第四條 何人タリトモ(外國人ヲ除クノ外)苟モ當銀行ノ規則ヲ奉シテ其株式ヲ引受ケタルモノハ都テ當銀行ノ株主タルヘシ  
株式券狀ノ事

第五條 各株主タルモノハ其引請ケタル株式一箇ニ付キ株式券狀一通宛ヲ領受スルノ權利アルヘシ但其離形ハ左ノ如シ  
(茲ニ銀行株式券狀ノ離形ヲ掲クヘシ)

第六條 當銀行ノ株式ハ國立銀行條例成規ノ規定ニ從ヒ頭取取締役ノ許可ヲ受ケ當銀行ノ簿冊ニ引合セタル上ニ於テ之ヲ賣買讓與



ナルコトヲ得ヘシ尤其株式券狀ノ書換ヲ爲サ、ルキハ當銀行ヨリ割渡スヘキ利益金ハ新故ヲ論ゼズ其株式券狀ノ名前入ヘ渡スヘシ  
頭取取締役撰擧ノ事

第七條 當銀行ノ取締役ハ一(三十六十)株以上ヲ所持スル株主ノ内ヨリ五人以上ヲ撰擧スヘシ其撰擧ノ初集議ハ一月一日一街ニ於テスヘシ

但シ各取締役ハ右株式券狀ヲ當銀行ニ預ケ其代リトシテ禁授受ノ三字ヲ附シタル保護預リ証書ヲ請取リ置キ右取締役奉職中ハ決シテ之ヲ引出スコトヲ得サルヘシ

第八條 取締役ノ衆議ヲ以テ其中ヨリ一人ヲ撰ミ之ヲ頭取ト爲スヘシ此頭取及ヒ取締役ノ在職年限ハ一ケ年ヲ以テ限リトスヘシ尤頭取取締役タル者其任ニ堪ヘサルカ或ハ取締役等ノ三分二以上ノ協議ヲ以テ退任セシムルハ此例ニアラズ

但シ副頭取ヲ撰任スルトキモ亦本條ニ準スヘシ尤此副頭取ハ頭取欠席スル中其事務ヲ代理スルマテニシテ平日ハ取締役ト同様タルヘキ旨ヲ掲載スヘシ

第九條 頭取取締役等ハ銀行ノ事務ヲ取扱フヘキ支配人并ニ書記方出納方計算方簿記方等ノ諸役員ヲ撰任シ又右ノ諸役員等ノ給料ヲ取定メ銀行ノ得失ヲ考ヘ同僚ノ衆議ヲ經テ此役員等ヲ進退黜陟スルノ權アルヘシ

但シ頭取取締役等ハ又銀行ノ支配人以下諸役員等ノ職掌ヲ分課シ其身元ノ引受人ヲ約シ過怠金ヲ豫定スルノ權アルヘシ

第十條 頭取取締役等ハ又向後ノ取締役撰擧ノ法ヲ定メ此撰擧ノ衆議ニ異論起ルキハ之ヲ裁決スヘキ裁決役ヲ取定ムルノ權アルヘシ

第十一條 頭取取締役等ハ都テ銀行條例成規ノ旨趣ヲ遵奉シ適任ノ職務ヲ執行スルノ權アルヘシ尤條例成規ノ要旨ヲ遵奉シテ厚



ノ當銀行ノ便益ヲ謀リ萬般ノ事務ヲ注意處分スヘシ

但シ頭取取締役等ノ失職ハ國立銀行條例中ノ罰例ニ從テ各其責ニ任スヘシ

第十二條 頭取取締役等ハ當銀行ノ處務ニ緊要ナル申合せ規則ヲ議定スルノ權アルヘシ

總會ノ事

第十三條 第一次ノ總會ハ開業免狀ヲ受ケシ日ヨリ一箇月以内ニ取締役取極ムル所ノ時日場所ニ於テ之ヲ執行フヘシ

第十四條 第二次以後ノ總會ハ毎年第一月一日第七月一日ニ頭取取締役取極ムル所ノ場所ニ於テ之ヲ執行フヘシ

但取締役ノ撰擧ハ毎年第一月ノ總會ニ於テ之ヲ決定施行スヘシ  
第十五條 右總會ハ都テ定式總會ト稱シ其他ノ總會ハ都テ臨時總會ト稱スヘシ

第十六條 頭取取締役ハ何時ニテモ適當ナリト思考スルニ於テハ臨時總會ヲ召集スルヲ得ヘシ又人員十名ニ下ラス其所持ノ株數當銀行總株ノ五分一ニ下ラサル株主等ヨリ書面ヲ以テ臨時總會ノ請求アルニ於テハ何時ニテモ之ヲ召集セサルヲ得サルヘシ  
但シ右請求書ニハ此總會ヲ要スル事件目的ヲ記載シ之ヲ本店ヘ差出スヘシ

第十七條 取締役ハ右請求書ヲ受取レハ直チニ此總會ノ召集ニ取掛ルヘシ

但シ取締役右請求書ヲ受取リシ日ヨリ七日以内ニ總會召集ノ手續ニ取掛ラサルキハ其請求人等自身ニ之ヲ召集スルカ又ハ他ノ株主等ト相謀テ之ヲ召集スルヲ得ヘシ

第十八條 凡ソ總會ニ於テ其事務ヲ評議處分スルニ當テハ必ス株主ノ總員(本人又ハ代人共)十分ノ五以上之レニ出席スルニ非サレ



ハ(利益金分配ノ報告一件ヲ除クノ外)何事ヲモ着手スヘカラス  
 第十九條 若シ總會ノ刻限ヨリ一時間ヲ過キテ其定式ノ人員臨席  
 セサリシキハ之ヲ此會日ヨリ七日目ニ延會シ此會ト同一ナル場  
 所刻限ニ於テ之ヲ執行フヘシ  
 第二十條 定式臨時ノ別ナク總會ノ議長ハ頭取(又ハ副頭取)之ニ任  
 スヘシ

第二十一條 若シ右ノ議長タルモノ總會ノ刻限ヨリ十五分時間ヲ  
 過キ猶臨席セサリシキハ出席ノ株主中ヨリ一名ヲ撰舉シテ之ヲ  
 議長ト爲スヘシ

第二十二條 凡ソ總會ニ於テ事ヲ決定スルコハ可否又ハ同意不同  
 意ナル發言投票ノ數多キモノヲ以テスヘシ而シテ決議濟ミノ次第  
 ナ銀行ノ簿冊ニ登錄シ議長之ニ記名調印シ以テ後日ノ參觀証據  
 ニ備ヘ置クヘシ

第二十三條 凡ソ總會ニ當リ發言投票ノ數相半スルトハ議長ノ叻  
 說決票ヲ以テ之ヲ裁決スヘシ

(此外總會ニ付キ緊要ナル箇條アラハ之ヲ掲載スヘシ)  
 株主發言投票ノ事

第二十四條 各株主ハ其所持ノ株數十箇迄ハ一株毎トニ一箇宛ノ  
 發言投票ヲ爲スヘシ又十一株以上百株迄ハ五株毎トニ一箇宛ヲ  
 増加シ百一株以上八十株毎トニ一箇宛ヲ増加スヘシ

第二十五條 發言投票ハ本人又ハ本人幼弱又ハ狂癪其他ノ事故ア  
 レハ代人コテモ若シカラス(尤代人ハ左ノ委任狀ヲ以テ其代人ヲ  
 ラシムヘシ)

(茲ニ委任狀ノ雛形ヲ掲クヘシ)

第二十六條 當銀行ノ役員タル者ハ他人ノ代人トナリテ發言投票  
 スルノ權利ヲ有スルコト得ズ又株式券狀ヲ當銀行ヘ借財ノ爲メ



質入シタル株主ハ自身又ハ他人ノ代人ニテモ一切發言投票ノ權利勿カルヘシ

諸役員ノ事

第二十七條 當銀行ノ役員ト稱スルモノハ左ノ如シ

取締役 一人

内

頭取 一人

副頭取 一人(若シ之アラハ)

支配人 一人

書記方 一人

出納方 一人

計算方 一人

簿記方 一人

(銀行ノ適宜ニヨリ此他役員ヲ設クル者ハ右ニ準シテ茲ニ掲クヘシ)

但シ當銀行創立ノ際取締役ノ撰任アル迄ハ發起人ヲ以テ取締役ト見做スヘシ

第二十八條 頭取取締役タル者ハ當銀行營業ノ全体ニ注意シ一切ノ事務ヲ處分シ總テ其責ニ任スヘシ然レモ新ニ一事ヲ興シ又ハ之ヲ更正シ又ハ之ヲ廢止シ及ヒ定例ナキ出納其他ノ事ヲ處スル等ノ如キハ株主總會ノ決議ヲ經ルニ非レハ之ヲ施行スルヲ得ス  
第二十九條 支配人ハ頭取取締役ノ差圖ヲ受ケ各掛リノ事務ヲ引請ケ其擔當ノ制限ニ依リ頭取取締役ニ對シ之ヲ調理スルノ責ニ任スヘシ  
(右ノ外取締役ノ撰任其他凡ソ銀行ニ於テ緊要ナリトスル事件ニ於テハ掲載スヘシ)

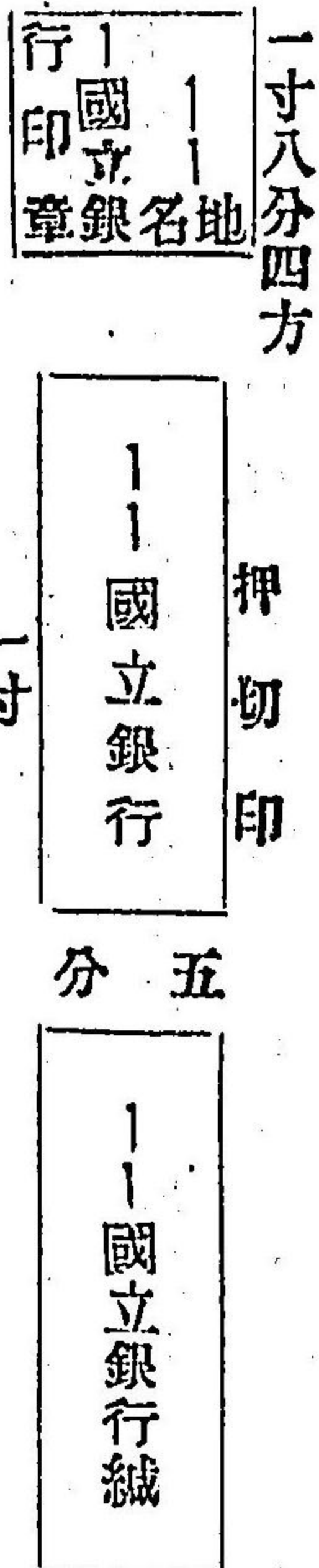
營業一般事務ノ事



第三十條 當銀行ノ營業取扱時間ハ本店及ヒ支店共定式(又ハ臨時) 休暇日ヲ除クノ外毎日午前第九時ヨリ午後第三時迄ケルヘシ

第三十一條 休業ハ例月何日及ヒ定式ノ祝日祭日ニ限ルヘシ

第三十二條 頭取取締役ノ衆議ヲ以テ決定シ當銀行ニ於テ用ケル所ノ本店(並ニ支店)ノ印章ハ即チ左ノ如シ



(此外事務取扱ノ方法ニ關スル諸規則ヲ茲ニ掲載スヘシ)

利益金分配ノ事

(茲ニ銀行ノ利益金分配ノ方法其他ヲ掲載スヘシ)

諸計算ノ事

(茲ニ諸計算ニ於ケル諸簿冊並ニ檢閱其他ノ規則ヲ掲載スヘシ)

平穩鎮店ノ事

第三十三條 當銀行三分二以上株主等ノ協議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ平穩ニ鎮店スルヲ得ヘシ尤其鎮店ノ手續ハ總テ國立銀行條例ヲ遵奉シテ之ヲ施行スヘシ

銀行定款更正ノ事

第三十四條 此定款ノ箇條ハ當銀行株主等ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ何時ニテモ之ヲ更正加除スルヲ得ヘシ右ノ條々株主等ノ衆議ヲ以テ相定候其証據トシテ私共一同姓名ヲ記シ調印致シ候也

年號一 年一 月一 日

各株主連名印

但シ此定款ハ株主等ノ協議ニヨリテ之ヲ草定シ退テ頭取支配人等定リシ上本紙正寫ノ二通ヘ左ノ與書ヲ加ヘ紙幣頭ヘ指出スヘシ

右一 國立銀行定款ハ之ヲ三通ニ認メ本紙一通正寫一通ヲ上呈シ



他ノ一通ハ同文言ニテ儘ニ之ヲ銀行へ藏メ置候仍テ其証據トシテ私共自ラ姓名ヲ記シ調印致シ候也

年號一 年一 月一 日

一 國立銀行支配人

姓名 印

同 頭取

姓名 印

紙幣頭何某殿

銀行へ藏メ置クヘキ正寫ノ與書ハ左ノ如シ

右ハ一 國立銀行定款本紙ノ正寫ニシテ其本紙并ニ正寫一通ツ、ハ規則ノ通り之ヲ紙幣寮へ差上候仍テ其証據トシテ私共自ラ姓名ヲ記シ調印致シ候也

年号一 年一 月一 日

一 國立銀行頭取

姓名 印

同 支配人

姓名 印

紙幣寮割印

右ハ一 國立銀行定款ノ正寫ニシテ其本紙ハ正ニ之ヲ當寮ニ受取其事ヲ承認シタル証據トシテ余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ茲ニ記名調印シ併セテ本寮ノ官印ヲ鈐シ以テ其銀行へ下付スルモノ也

年號一 年一 月一 日

紙幣頭姓名印

紙幣

寮之印

但シ創立証書ハ國立銀行ヲ創立スルニ於テ政府ト其銀行トノ約定書ニ比シキ緊要ノ書面ニシテ自ラ銀行定款ト異ナル者ナリ銀



行定款ハ全ク銀行株主等ノ取定メタル社中ノ規則ニシテ政府ニ  
關係アル者ニアラス故ニ銀行ノ役員ヨリ株主等ニ至ルマテ苟モ  
此別チ誤ルヘカラス

第七條 紙幣頭ハ右創立証書并ニ銀行定款ニ相當ト思考スルコ於テ  
ハ其開業免狀ヲ其銀行ヘ下ケ渡ス可シ然ル後其銀行ハ始メテ名号  
ヲ公稱シ其業ヲ始ムルコヲ得ヘシ

但シ紙幣頭ヨリ開業免狀ヲ下ケ渡サ、ル内ハ創立ニ付テ差起ル  
事故及ヒ開業前緊要ナル件々ノ外決シテ銀行營業ノ事務ヲ取扱  
フヘカラス

第八條 右開業免狀ノ雛形ハ左ノ如シ

第一番

開業免狀

一(府縣)管下第一大区一小区一(町村)ニ於テ創立スル一国立銀行

紙幣察印

ヨリ差出シタル創立証書ニ據リ此銀行ハ大日本政府ヨリ發行ス  
ル所ノ公債証書ヲ抵當トシテ銀行紙幣ヲ發行シ之ヲ通用シ之ヲ  
引換フル儀ニ付明治一年一月一日大日本政府ニ於テ制定施行シ  
タル国立銀行條例ノ手續ヲ履行シタルコト分明ナルニ付此開業免  
狀ヲ交付シ自今右條例ヲ遵奉シ国立銀行ノ業ヲ營ムコトヲ許可ス  
ルモノ也

右ノ証據トシテ余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ茲ニ記名調印シ併セテ  
本察ノ官印ヲ鈐スルモノ也

年號一年一月一日

紙幣頭姓名印

紙幣  
察之印

但シ右開業免狀ヲ得タル上ハ直ニ其事業ヲ經營スルヲ得ヘキニ



付火盜ノ難ヲ防カンカ爲メ堅固ナル金庫ヲ建築スヘシ

○株金募方ノ事

第九條 株金ヲ募ルノ法ハ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告

スヘシ即チ何(府縣)管下第何大區何小區何(町村)何番地ニ於テ何々

ノ方法ヲ以テ國立銀行ヲ創立スルニ付其組合ニ加入セント欲スル

人々ハ何月何日ニ何街何屋ニ來ルヘシ發起人何ノ誰々等ト記載スヘシ

第十條 當日ニ至テ右何街何屋ニ於テ發起人等簿冊ヲ開キ其銀行ノ

組合ニ加入セント申込ミタル人々ノ姓名并ニ入金スヘキ金額ヲ其

簿冊ニ書込ミ何月何日迄ニ入金スヘキ旨ヲ取定ムヘシ

第十一條 入金ノ當日ニ至テ入金者ハ各其簿冊ニ書込ミタル金額ヲ

其發起人方ヘ持參スヘシ而シテ其發起人等ハ其金子引替ニ左ニ掲載

セル入金受取証書ヲ其入金者ヘ渡スヘシ

但シ此書込ミニテ集金ノ員額發起人等ノ見込員額ヨリ多キハ

割引ヲ以テ入金者ノ出金員額ヲ減少スルカ又ハ銀行ノ資本金額  
ヲ最初ノ見込ミヨリ増加スルトモ其發起人等ノ存意ニ任スヘシ

半高入金受取証書

一金一圓也

割印

右ハ今般創立ノ一國立銀行株式ノ内一株ノ半高一株ニ付キ一圓

ノ割合ヲ以テ最初ノ入金トシテ書面ノ通正ニ落手致シ候右株式券

狀ハ追テ総月賦入金相濟候上ニテ交付可致候仍テ爲後証如件

年號一 年一月一日 一 國立銀行發起人

連名印

何某殿

○資本金月賦入金ノ事

第十二條 國立銀行ノ資本金ハ開業前必ス其半高ヲ株主等ヨリ銀行



へ入金シ残り半高ハ五ヶ月ニ割合ヒ之ヲ入金スヘシ

例へハ資本金十萬圓ノ銀行ナレハ

一月十五日開業迄ニ入金高	五萬圓
二月十五日迄ニ入金高	壹萬圓
三月十五日迄ニ入金高	壹萬圓
四月十五日迄ニ入金高	壹萬圓
五月十五日迄ニ入金高	壹萬圓
六月十五日迄ニ入金高	壹萬圓
合計拾萬圓	

右ノ如ク開業ノ日ヨリ算シテ毎月入金スヘシ尤六ヶ月前ニ悉ク入金シ又ハ開業前ニ資本金總額ヲ入金スルハ其銀行ノ適宜タルヘシ但シ銀行ニ於テ右月賦入金ヲ受取ルキハ左ノ受取證書ヲ株主へ渡スヘシ

割印

第一回月賦入金請取証書

一金一圓也

右ハ當一國立銀行株式ノ内一番ヨリ一番マテ一株ノ第一回月賦入金一株ニ付一圓ノ割合ヲ以テ書面ノ通正ニ落手致候右株式券狀ハ追テ總月賦入金相濟候上ニテ交付可致候仍テ爲後証如件

年號一 年一 月一 日

一 國立銀行支配人

銀行
之印

同頭取

姓名印

姓名印

何某殿

○資本金集合高申牒ノ事

第十三條 株主等ヨリ月賦金ヲ其割合ニ從ヒ入金スルキハ其月賦總



入金濟迄ハ毎月其銀行ヨリ資本金集合高届書ヲ紙幣頭へ差出スヘシ其文例ハ左ノ如シ

資本金集合高届書

一(府縣)管下第一大区一小区一(町村)ニ創立シタル一国立銀行ノ資本金トシテ一萬一千圓ノ第一回月賦ヲ株主等ヨリ入金イタシ是迄ノ入金ニ加算シ總高一萬一千圓ト相成候也

年號一年一月一日 一国立銀行支配人

銀行之印

同頭取

姓名印

紙幣頭何某殿

○資本金増減ノ事

第十四條 国立銀行ハ條例第四十條ニ準據シ其資本金額ヲ増加スル

并ハ速カニ資本金増加証書ヲ紙幣頭へ差出スヘシ其文例ハ左ノ如シ

資本金増加証書 一(府縣)管下第一大区一小区一(町村)一国立銀行

元株數並金額	増株數并金額	合計	住所	姓名
一 株 一 圓	一 株 一 圓	一 株 一 圓	一(府縣)管下 第一大区一小区 一(町村)一 番地	(府縣)華士 族平民 何某
合 一 株 一 圓	合 一 株 一 圓	總計 一 株 一 圓		

右ハ社中格段決議ヲ經テ資本増加仕候現額書面ノ通相違無之候也

年号一年一月一日 一国立銀行支配人

銀行之印

同頭取

姓名印



紙幣頭何某殿  
右之通相違無之候也

地方官  
廳之印

地方長官姓名印

紙幣察印

右ノ国立銀行資本金増加証書ヲ差出スニ付年号ノ年一月一日  
余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ其事ヲ承認シタル証據トシテ茲ニ記名調  
印ニ併セテ本察ノ官印ヲ鈐スルモノ也  
年號ノ年一月一日  
紙幣頭姓名印

紙幣  
察之印

但シ右ノ書面ヲ差出サハ紙幣頭ハ奥書并ニ鈐印シテ之ヲ其銀行  
ニ下付スヘシ銀行ハ此奥書ヲ得タル上ニテ公債証書ヲ預ケ銀行

紙幣ヲ請取ルノ手續ニ取掛ルヘシ

第十五條 国立銀行ハ條例第四十二條ニ準據シ其資本金ヲ減少スル  
ルハ諸般ノ手續ヲ經テ後ニ紙幣頭ヘ其資本金減少証書ヲ差出スヘ  
シ其文例ハ左ノ如シ

但シ減少ノ手續ハ其銀行紙幣ヲ紙幣察ニ返上シテ焼捨ノ手續ヲ  
ナシ其同額ノ公債証書ヲ紙幣頭ノ手ヲ經テ出納頭ヨリ取戻スヘ  
シ而シ其準備金モ亦之ニ準シテ減少スヘシ

資本金減少証書 (府縣)管下第一大区一小区一(町村)一国立銀行

減少株數并金額	殘株數并金額	住	所	姓	名
1株 1圓	1株 1圓	(府縣)管下第1 大区一小区一(町 村)一番地	(府縣)管下第1 大区一小区一(町 村)一番地	民	(府縣)華士族平 何某

○第二十三章會社○第三節国立銀行



合1株 1圓			

右ハ社中格段決議ヲ經テ資本金減少仕候高並ニ殘現額共書而ノ  
通リ相違無之候也

年号 1年1月1日

1 國立銀行支配人

姓名印

同 頭取

姓名印

銀行  
之印

紙幣頭何某殿

右之通相違無之候也

地方官

地方長官姓名印

廳之印

紙幣察割印

右1 國立銀行資本金減少證書差出スニ付年號1年1月1日  
余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ其事ヲ承認シタル證據トシテ茲ニ記名  
調印シ併セテ本察ノ官印ヲ鈐スルモノ也  
年號 1年1月1日  
紙幣頭姓名印

紙幣察  
之印

右増減証書ハ各二通宛ヲ紙幣察ニ出シ其一通ハ前ノ文例ノ如ク  
紙幣頭與書鈐印シテ其銀行ヘ下付スヘシ

○公債証書預方ノ事

第十六條 國立銀行ニテ其業ヲ始ムヘキ前ニ四朱以上利付ノ公債証  
書ヲ買入レ之ヲ出納頭ニ預クヘシ右ハ其銀行ヨリ發行スヘキ紙幣  
ノ抵當ナレハ其銀行ノ資本金額十分八ノ割合ニシテ即チ銀行ニ受  
取ルヘキ銀行紙幣ト同額タルヘシ(條例第十八條第二十二條ヲ參考

○第二十三章會社○第三節國立銀行



スヘシ)

第十七條 出納頭ハ右公債証書ヲ領受シ直チニ假請取書ヲ其銀行ヘ下付シ追テ紙幣頭連名ノ本請取証書ヲ製シ其假請取証書ト引換フヘシ

○銀行紙幣注文ノ事

第十八條 國立銀行ハ右公債証書ノ請取書ヲ領受セハ其銀行ヨリ發行スヘキ銀行紙幣ノ受取方ヲ頭取支配人ヨリ注文書ヲ以テ紙幣頭ヘ申立ツヘシ其文例ハ左ノ如シ

但シ條例第四十六條ニ準據シテ此ノ注文書ヲ差出スヘシ

銀行紙幣注文書

一(府縣)管下第一大區一小区一(町村)ニ創立シタル一國立銀行ニ於テ國立銀行條例ニ從ヒ一萬一十圓ノ銀行紙幣ヲ發行致シ度ニ付左ニ掲載スル種類員額ノ紙幣製造之上御渡被下度候也

銀行紙幣種類	枚	數	金額
1	圓	1	圓
1	圓	1	圓
1	圓	1	圓
合	1	1	圓

右銀行紙幣ノ抵當トシテ出納頭ニ預ケタル公債証書ノ現額ハ左ノ如シ

公債証書ノ種類	利	息	實價	割合	金額
1公債証書1圓	1	朱	百圓ニ付	1	圓
1圓1枚	1	朱	百圓ニ付	1	圓







第二十條 國立銀行ニテ右銀行紙幣ヲ領受スルニ於テ頭取支配人ノ  
 兩人一々其紙幣ノ表面ニ其役名及ヒ姓名ヲ記入シ其役印ヲ押捺シ  
 テ後チ之ヲ世上ニ發行スヘシ若シ其記入押捺ノ際損傷等ノモノア  
 ルニ於テハ更ニ其趣チ紙幣頭ニ申立テ其損傷紙幣ヲ納メテ引替チ  
 乞フヘシ

但シ頭取支配人ハ其印影ヲ紙幣頭ニ差出シ其紙幣押印ノ用肉ヲ  
 紙幣察ヨリ受取ルヘシ

○損壞銀行紙幣引換方ノ事

第二十一條 國立銀行ヨリ發行シタル銀行紙幣敗裂汚染等ニテ通用  
 シ難キモノアルハ條例第五十一條ニ準據シ頭取支配人ヨリ書面  
 チ添ヘ之ヲ紙幣頭ニ差出シテ其引換ヲ請フヘシ其文例ハ左ノ如シ  
 但シ記名押印ノ際損傷シタル銀行紙幣ノ引換モ亦此例ヲ以テ申  
 立ツヘシ

記

銀行紙幣種類	枚	數	金額
1 圓	1	枚	1 圓
1 圓	1	枚	1 圓
合計	1	枚	合計 1 圓

右ハ當銀行發行紙幣ノ内敗裂(或ハ汚染)ニテ通用難相成分書面之通  
 差上候處相違無之候

右敗裂(或ハ汚染)ノ銀行紙幣ハ國立銀行條例ノ規定ニ從ヒ燒捨ノ立



合可仕候尤モ燒捨濟ノ上右同種同額ノ新銀行紙幣ヲ御渡シ可被下  
候此段奉願候

年號 一 年 一 月 一 日

一 國立銀行支配人

姓 名 印

同 頭 取

姓 名 印

銀 行  
之 印

紙幣頭何某殿

紙幣頭ハ右敗裂或ハ汚染ノ銀行紙幣ヲ請取ニハ其代リ新銀行紙幣  
ヲ以テ之ヲ其銀行ニ下付スヘシ

第二十二條 紙幣寮ニ於テ右銀行紙幣ヲ燒捨ノ節ハ其趣ヲ銀行ヘ通  
達アル可キニ付銀行ハ立合人ヲ紙幣寮ニ差出シ燒捨所ニ於テ立合  
實驗ノ上燒捨証書ニ記名調印スヘシ尤モ此燒捨証書ハ二通ニ認メ

一通ハ紙幣寮ニ納メ一通ハ之ヲ其銀行ヘ下付スヘシ右ノ立合ニハ  
大藏省ニ關係ナキ人ヲ撰ミ銀行ヨリ差出スヘシ

但シ遠隔ノ地方ニ創立シタル銀行ハ東京ニ於テ豫テ燒捨ノ立合  
人ヲ頼置キ其姓名住所ハ之ヲ紙幣寮ニ届ケ置クヘシ

第二十三條 國立銀行ヨリ引換ノ爲メニ紙幣寮ニ差出スヘキ敗裂或  
ハ汚染ノ銀行紙幣ハ五百圓以上ノ高タルヘシ其銀行紙幣ハ消印ヲ  
押シ種類ヲ分チ其封套ニ其金額ヲ記載シ前第二十一條ニ掲クル所  
ノ書面ヲ添ヘ之ヲ紙幣寮ヘ差出スヘシ尤モ此紙幣引替ニ付往復運  
送ノ諸費用ハ銀行之ヲ辨スヘシ

但シ數片ニ細裂シタル銀行紙幣アラハ銀行ノ役員之ヲ連接シテ  
差出スヘシ

第二十四條 (明治十二年一月二十日第三號布告ヲ以テ左之通り改正ス)  
敗裂銀行紙幣ヲ其銀行ニ持參シ引換ヲ請フ者アルハ其役員之ヲ



精密ニ検査シ金額ハ勿論店名(又ハ役員姓名)明瞭ニシテ番號記號全  
 存スル者及番號記號一モ存セサル者ニテモ缺失セシ部分ニ金額及  
 店名(又ハ役員姓名)番號記號(各其一)ノ連續シテ俱ニ存スヘキ餘地ナ  
 キ者ハ全額ヲ以テ交換スヘシ又番號記號各其一ヲ存シ且金額及店  
 名(又ハ役員姓名)明瞭ナルモ缺失セシ部分ニ猶金額及店名(又ハ役員  
 姓名)番號記號(各其一)ノ連續シテ俱ニ存スヘキ餘地アル者ハ総テ  
 半額ヲ以テ交換スヘシ若又細裂シテ其紙片ノ全備セサル者ト雖モ  
 之ヲ集合シテ彩紋字体等ノ連續スル者ハ前文ノ例ニ照準シ全額或  
 ハ半額ヲ以テ交換スヘシ  
 但シ汚染ノ紙幣ニシテ金額及其店名等ヲ認メ得ヘキ者ハ全額ヲ  
 以テ交換スヘシ

○株式ノ事

第二十五條 國立銀行ノ株主タル者ハ其所持スル所ノ株金總入金濟

ミトナリタルモハ社印ヲ鈐シタル株式券狀ヲ一株ニ付一通宛領受  
 スルノ權利アルヘシ其株式券狀ノ雛形ハ左ノ如シ

第一番

大日本一地名 國立銀行株式券狀

一府 縣管下第一大區一小区一町一村一番地何某股儀大日本帝國政府ニ

於テ制定施行シタル國立銀行條例ヲ遵奉シ且ツ當銀行ノ定款ヲ

確守シ年號一年一月一日ヨリ我一一國立銀行株式ノ内(五十圓

即チ一株ノ持主タルコト相違無キ證據トシテ此株式券狀ニ當銀行

ノ印章ヲ押捺シ之ヲ附與スルモノ也

此株式券狀ヲ賣却讓與セント欲セハ當銀行ニ持參スヘシ銀行ニ  
 於テ至當ノ検査ヲ遂ケ此券狀裏面ノ枠内ニ頭取支配人記名調印  
 ノ上之ヲ差戻スヘシ

年號一年一月一日

一一國立銀行頭取







株式賣買証書

一 國立銀行株式ノ内第一番(或ハ第一番ヨリ一番迄)一株式何某(茲ニ賣渡人ノ姓名ヲ掲ク)所持ノ分代金一圓ニテ今般何某(茲ニ買受人ノ姓名ヲ掲ク)へ賣渡シ書面ノ金額受取渡シ相濟候處實正也然ル上ハ向後買受人ハ勿論其相續人後見人ニ於テモ之ヲ所持シ何某(賣渡人ノ姓名)所持中ト同様ノ規約ヲ遵守スヘシ仍テ証書如件

年號一 年一 月一 日

一(府縣)管下第一大區一 小區一(町村)一 番地

賣渡人 姓名 印

一(府縣)管下第一大區一 小區一(町村)一 番地

買受人 姓名 印

一(府縣)管下第一大區一 小區一(町村)一 番地

証人 姓名 印

一 國立銀行

御中

第二十九條 右株式賣買ノ簿冊ハ每半季定式總會以前日數十五日ノ間ハ之ヲ閉鎖シ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ其趣ヲ世上ニ公告シテ一切其事ノ取扱ニ從事セサルコトヲ得ヘシ

○株式讓與ノ事

第三十條 銀行株主ノ内死去スル者アリテ其相續人若クハ後見人ノ右株式ヲ讓受クヘキモノハ銀行ノ要求セル然ルヘキ證據ヲ差出シタル上ニテ其銀行ノ株主トシテ株主牒ノ記載ニ入ルコトヲ得ヘシ

○株式没入ノ事

第三十一條 銀行ノ株主等若シ株金ノ月賦入金ヲ怠ルキハ頭取取締役等ハ條例第三十二條三十三條ニ準據シテ之カ處分ヲ爲スヘシ

○總會ノ事

第三十二條 第一次ノ總會ハ銀行其開業免狀ヲ受ケシヨリ以後三ヶ月以内ニ於テ其頭取取締役ノ取極メタル時日場所ニ於テ之ヲ執行

○第二十三章會社○第一節國立銀行



スヘシ

第三十三條 第二次以後ノ總會ハ毎年第一月第七月(何レモ然ルヘキ日ニ於テ)頭取取締役ノ取極ムル所ノ時日場所ニ於テ之ヲ執行フヘシ

第三十四條 凡ソ總會ハ定式臨時ノ二様ニ分テ前條ニ掲載シタル總會ヲ定式總會ト稱シ此總會ニ於テハ總勘定ニ於ケル正算指示ノ事並ニ利益金分配ノ事及ヒ頭取支配人ヨリ差出ス所ノ平常處務ノ顛末ヲ記載シタル書類ヲ検査審接スル等ノ事ヲ施行スヘシ其他ノ總會ヲ臨時總會ト稱シ臨時ニ起ル所ノ事件ヲ評議處分スヘシ

第三十五條 凡ソ總會ヲ執行ハントスルニ當テハ其取極メタル時日場所ヲ報告書ニ記載シ若シ(格段決議ニ付スヘキ事件アレハ其大旨ヲモ加載シ)少クトモ日數七日以前ニ於テ之ヲ總株主ヘ通知スヘシ而シ右ノ如ク手數ヲ爲セシ上ハ假令株主ノ内右報告書ヲ受承セサルモノアルトモ此總會ノ手順ニ於テハ既ニ盡セシモノト爲スヘシ

但シ銀行ヨリ株主ヘ報告スルノ書類ハ之ヲ直達スルカ又ハ郵便其他ノ手續ヲ以テスルキ都テ銀行ノ便宜ニ任スヘシ

第三十六條 銀行ノ頭取取締役ニ於テ適當ナリト思考スルカ又ハ株主ノ人員十名ニ下ラスノ其所持ノ株數總株ノ五分一以上ニ及フ者ヨリ之ヲ請求スルニ於テハ何時ニテモ臨時總會ヲ執行フヲ得ヘシ

第三十七條 右株主等ノ請求ハ之ヲ書面ニ認メ此總會ヲ請求スル所以ノ目的事件ヲ詳載シ郵便其他ノ手續ヲ以テ之ヲ頭取取締役ヘ送達スヘシ

第三十八條 頭取取締役ハ右請求書ヲ領受セハ直チニ其總會招集ノ事ニ取掛ルヘシ若シ取締役右請求ヲ承知セシ日ヨリ日數七日ノ内ニ召集ノ手續ヲナサ、ルキハ右請求人等自身ニ之ヲ召集スルカ又ハ其他ノ株主等ト相謀テ之ヲ召集スルヲ得ヘシ

第三十九條 凡ソ總會ニ於テ事務ヲ評議處分スルニ當テハ必ス株主



ノ總員(本人又ハ代人共)十分ノ五以上之ニ出席スルニ非レハ(利益金分配ノ報告一件ヲ除ク)ノ外何事ヲモ評議處分スヘカラス

第四十條 凡ソ總會ノ議長ハ頭取(又ハ副頭取)之ニ任スヘシ

第四十一條 右議長若シ會集スヘキ刻限ヨリ十五分時間ヲ過キ猶ホ臨席セサリシキハ出席會主等ノ内ヨリ一人ヲ公撰シ以テ議長ト爲スコヲ得ヘシ

第四十二條 凡ソ總會ニ於テ事ヲ議定スルコハ(可否又ハ同意不同意ノ發言若クハ投票ニテモ)其說ノ多數ニ因リ以テ之ヲ決定シ其次第ヲ簿冊ニ登錄シ併セテ其決議濟ミノ旨ヲ加載シ其節ノ議長之ニ檢印シ以テ後日參觀證據ニ備ヘ置クベシ

第四十三條 凡ソ總會ニ於テ事ヲ議定スルコ若シ發言投票ノ數相半ハスルキハ議長ノ助說若クハ決票ヲ以テ之ヲ裁決スヘシ

○株主發言投票ノ事

第四十四條 銀行ノ株主等ハ各其所持セル株數十箇迄ハ一株毎トニ

一個宛ノ發言投票ヲ爲スヘシ又十一株以上百株迄ハ五株毎トニ一個宛ヲ増加シ百一株以上ハ十株毎ニ一個宛ヲ増加スルコヲ定ムヘシ

第四十五條 凡ソ銀行ノ役員タル者ハ他人ノ代人トナリテ發言投票スルノ權利ヲ有スルコヲ得ス又株式券狀ヲ借財ノ爲メ其銀行ニ質入シタルモノハ總會ニ於テ自身又ハ他人ノ名代ニテモ一切發言投票ノ權利勿カルヘシ

第四十六條 發言投票ハ本人又ハ(本人幼弱又ハ狂癪其他ノ事故アルニ於テハ)代人何レモ勝手タルヘシ尤モ代人ハ其銀行ノ株主中ノ者ニ限り之ニ委任狀ヲ與ヘ以テ之ヲ差出スヘシ若シ其代人ヲ差出サスノ決議ノ後如何ナル異議アルモ一切之ヲ申立ツルコヲ得サルヘシ

第四十七條 右代人委任狀ノ雛形ハ左ノ如シ

委任狀ノ事



年号一年一月一日 國立銀行ノ定式又ハ臨時總會及ヒ其總會ニ於テ何某ヲ拙者代人トシテ發言投票爲致候仍テ委任狀如件

年号一年一月一日

國立銀行株主

姓名印

國立銀行

御中

○諸役員ノ事

第四十八條 國立銀行ノ役員ト稱スルモノハ左ノ如シ

- 取締役 何人
- 内
- 頭取 何人 副頭取 何人(若シ之アラハ)
- 支配人 何人 書記方 何人
- 出納方 何人 計算方 何人

簿記方 何人

但シ右ノ如ク制定スト雖モ銀行ノ便宜ニ依リ之ヲ廢置兼攝シ若クハ其他ノ役員ヲ設置スルヲ得ヘシ尤取締役ノ人員ハ(頭取副頭取ヲ加ヘ)都合五名ヨリ減少スヘカラス故ニ若シ右ノ定員ヨリ欠クルモ株主一同ノ協議ヲ以テ速カニ其欠ヲ補フヘシ

第四十九條 國立銀行ノ頭取取締役タル者ハ其銀行營業ノ全体ニ注意シ實際ノ事務ヲ處分シ總テ其責メニ任スヘシ然レモ新ニ一事ヲ興シ又ハ之ヲ更正シ又ハ之ヲ廢止シ及ヒ定例ナキ出納其他ノ事ヲ處スル等ノ如キハ株主總會ノ決議ヲ經ルコト非レハ之ヲ施行スルヲ得ス  
第五十條 取締役ハ同僚中ヨリ(入札公撰ヲ以テ)其人ヲ撰舉シテ頭取(又ハ副頭取)ト爲スヘシ此頭取ハ銀行ノ事務ヲ總判シ及ヒ會議ノ席ニ於テ議長ノ職ニ任スヘシ  
但シ副頭取ハ頭取欠席スルモ其事務ヲ代理スル迄ニシテ平日ハ

○第二十三章會社○第一節國立銀行



取締役ト同様ノ職任タルヘシ

第五十一條 左ニ掲ケシ人々ハ取締役タルヲ得ス

第一 銀行ニ於テ三十株又ハ六十株以上ヲ所持セサル株主

但シ資本金拾萬圓以上ニシテ一株百圓ノ銀行ナレハ三十株  
一株五十圓ノ銀行ナレハ六十株又資本金拾萬圓未滿五萬圓  
以上ニシテ一株五十圓ノ銀行ナレハ三十株一株二十五圓ノ  
銀行ナレハ六十株ノ割合タルヘシ

第二 一旦破産ニ遇ヒシ株主

第五十二條 取締役ノ人員三分二ハ本店設立ノ地方ニ於テ少クトモ  
一ケ年間住居セシモノタルヘシ

第五十三條 各取締役ハ其所持ノ株式券狀三十箇又ハ六十箇(前第五  
十一條中第一項ニ掲ケル所ノ割合)ヲ其銀行ニ預ケ其代リトシテ禁  
授受ノ三字ヲ附シタル保護預リ証書ヲ請取リ置キ右取締役ノ奉職

中ハ決シテ之ヲ引出スヲ得ス

第五十四條 頭取取締役タリトモ株主一同ノ協議ニテ取極メタル給  
料旅費及ヒ賞與金手當並ニ株主ノ場ニテ受取ルヘキ分配利益金ノ  
外自餘ノ所得ヲ受クルヲ得サルヘシ

第五十五條 取締役ノ撰舉ハ定式總會ニ於テ株主一同ノ投票ヲ以テ  
之ヲ撰舉スヘシ尤モ不時ニ欠員アルキハ臨時總會ニ於テ之ヲ撰舉  
スヘシ

第五十六條 右ノ總會ニ於テ撰舉セラル、所ノ取締役ハ直チニ誓詞  
ニ通テ認メ其地方長官ノ面前ニ於テ調印シ本紙ハ紙幣頭ニ差出シ  
寫一通ハ其銀行ニ藏メ置クヘシ其文例ハ左ノ如シ

頭取ノ誓詞  
取締役

一(府縣)管下第一大区一小区一(町村)ニ於テ創立シタル一国立銀行



ノ取締役何某謹テ左ノ條々ヲ摺フ  
私儀ハ(府縣)ノ(華士族平民)ニシテ(府縣)管下第一大區一小区(町村)ニ居住イタスニ相違無之事

當銀行ノ事務ヲ處分スルニ付私關係ノ職掌ハ忠實ニ取扱ヘキ事  
私在職中國立銀行條例成規ノ旨趣ハ一ケ條タリトモ決シテ犯間敷  
又他人ヲシテ犯サセ間敷事

國立銀行條例成規ノ規定ニ從ヒ私儀當銀行資本金中ノ(三十六十)株  
ハ自力ヲ以テ所持スルニ相違無之事  
右ノ株式券狀ハ國立銀行條例成規ノ規定ニ從ヒ當銀行へ預ケ置キ  
在職中ハ決シテ引出ス間敷候事

(府縣)管下第一大區一小区(町村)一國立銀行(頭取取締役)  
年號一 年一 月一 日書面ノ者余カ面前ニ於テ調印シ摺約致シ候事相  
姓 名 印

違無之候也

地方官  
廳之印

地方長官姓名印

但シ此摺詞ハ取締役等各通タルヘシ

第五十七條 銀行ノ頭取支配人ニ撰舉サレタル時ハ新任ノ印影ヲ添  
ヘ上任ノ報告ヲ紙幣頭ニ差出スヘシ其文例ハ左ノ如シ

但シ最初撰舉ノキ差出ス所ノ上任報告ニハ文例中元役ヲ除クハ  
勿論タルヘシ

上任報告

當一 月一 日何某儀ハ當國立銀行ノ頭取ニ選ハレ何某儀ハ支配人ニ  
命セラレ共印鑑ハ別紙之通ニ候也  
年号一 年一 月一 日 一 國立銀行



銀行  
之印

紙幣頭何某殿

元支配人	姓名	印
元頭取	姓名	印
新支配人	姓名	印
新頭取	姓名	印

用紙美濃紙堅七寸幅二寸

年号 一年一月一日何某代リ  
何役撰舉 府華士族平民

銀行  
之印

印鑑 小印

宿所

姓名 一年一月

第五十八條 頭取取締役ハ其職務ヲ舉クル爲メ少クモ毎月三度以上同僚中ノ集會ヲ爲シ以テ共事務ノ評議處分スルヲ得ヘシ而シテ此

集會ノ体裁方法ハ總會ノ手續ニ準據シ銀行ニ於テ然ルヘキ規程ヲ立テ以テ之ニ從事スヘシ

第五十九條 頭取取締役在職ノ年限ハ一期必ス滿一箇年タルヘシ而シテ退役放免等ノ外ハ奉職ノ年限中必ス勤仕スルモノト爲スヘシ但シ頭取取締役ノ在職年限ハ本條掲クル所ノ如シト雖モ其滿期ニ至リ更ニ入札公撰ヲ以テ重年上任スルヲ得ヘシ尤モ重年上任シタルハ第五十六條五十七條ニ準據シ更ニ誓詞並ニ上任報告ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

第六十條 支配人以下ノ撰舉並ニ給料等ハ頭取取締役ノ意見ニ因リ之ヲ取極ムヘシ尤モ支配人ハ銀行ノ事業ヲ處分スル重任ナレハ株主ニ非サル者コテモ須ラク熟練ノ人ヲ撰フヘシ且其他ノ役員モ亦他人ヲ雇入ルハ其銀行ノ便宜ニ任スヘシ

○社中申合規則ノ事

○第二十三章會社○第三節國立銀行



第六十一條 頭取取締役ハ其同僚ノ衆議ヲ盡シ利益金分配ノ手續諸役員ノ權限分課給料旅費ノ定則及ヒ其褒貶進退其他一切緊要ナル事件ヲ適宜掲載シタル社中申合規則ヲ議定スヘシ尤モ右申合規則ハ條例成規ノ旨趣ニ背戾セサルハ勿論スリト雖モ其社中ノ申合ニ止ルヲ以テ更ニ紙幣頭へ差出スニ及ハサルヘシ

○利益金分配ノ事

第六十二條 頭取取締役ハ株主ノ總會ヲ經テ銀行ノ利益金ヲ株主銘々所持ノ株高ニ應シテ割渡スヘキ旨ヲ總株主へ報知スヘシ

○諸計算ノ事

第六十三條 銀行ノ出納其他一切ノ計算ニ關スル諸簿冊ハ紙幣頭差圖スル所ノ書式ニ從ヒ明細嚴肅ニ記入スヘシ

第六十四條 頭取取締役ハ每半季考課狀及ヒ出納ノ明細書ヲ製シ總會ニ於テ之ヲ株主一同へ明示スヘシ

○諸願伺届等差出方ノ事

第六十五條 銀行ノ諸願伺届報告其他凡ソ諸官廳へ差出スヘキ一切ノ文書ハ必ラス本紙一通正寫一通都合二通宛タルヘシ

○國立銀行報告ノ事

第六十六條 國立銀行ハ銀行條例第七十七條ニ準據シ紙幣頭差圖スル處ノ書式ニ從ヒ半季及ヒ毎月其銀行營業ノ實際報告ヲ製シ之ヲ紙幣頭へ差出スヘシ其報告ノ種類ハ左ノ如シ

但シ右報告用紙ハ相當ノ代價ヲ以テ紙幣頭ヨリ拂下シヘシ

第一 銀行半季考課狀

第二 銀行半季實際報告

第三 銀行半季利益金割合報告

第四 銀行半季平均高報告

第五 銀行年中平均高報告



第六 株主姓名表

右六種ノ報告ハ第一月十日第七月十日マテニ紙幣頭へ差出スヘシ  
尤モ遠隔ノ地方ニ本店又ハ支店ヲ設置シタル銀行ハ其郵便日數ヲ  
宥恕スヘシ

第七 銀行本店毎月實際報告

第八 銀行支店毎月實際報告

右二種ノ報告ハ毎月五日マテニ紙幣頭へ差出スヘシ尤モ遠隔ノ地  
方ニ設置シタル銀行ハ其郵便日數ヲ宥恕スヘシ但シ支店毎月報告  
ハ其本行ヲ經ルコト及ハス其支店ヨリ直チニ紙幣頭へ差出スヘシ右  
ノ外紙幣頭ノ考按ニヨリ臨時實際ノ報告ヲ差出サシムルコトアルハ  
シ尤モ右臨時報告ノ差出方ハ其時々紙幣頭ヨリ命スヘシ  
右之通相定候事

○達

大藏省

○明治十二年十月三日

振出手形ノ儀ハ自今左ノ通心得發行可致此旨相達候事

第一 此手形ハ一枚ノ金額百圓以上タルヘシ

第二 此手形ハ振出シタル年月日及預ケ主ノ姓名ヲ記入シ授受ノ際  
ハ必ス裏書ヲ要スヘシ

第三 此手形ニ對シテハ利息ヲ付スヘカラス

第四 此手形ハ發行店ノ外其仕拂ヲ爲スヘカラス

但賣買割引ハ此限ニアラス

第五 此手形ハ銀行紙幣并ニ預金ノ準備ト爲スヲ得サルハ勿論金銀  
有高ニ算入スヘカラス  
以上

○第四節 日本銀行

○布告

○第二十三章會社○第四節日本銀行



○明治十五年六月廿七日  
第三十二号

日本銀行條例

- 第一條 日本銀行ハ有限責任トシ本行ノ負債辨償ノ爲メ株主ノ負擔スベキ義務ハ株金ニ止マルモノトス
- 第二條 日本銀行ハ本店ヲ東京ニ置クヘシ各府縣ノ首邑其他要用ナル地方ニ支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コレレスポンデンス」ヲ締約スルヲ得但シ支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コレレスポンデンス」ヲ締約スルキハ其事由ヲ大藏卿ニ具狀シテ其許可ヲ受クヘシ又大藏卿ニ於テ支店出張所ヲ要用ナリトスルキハ銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ
- 第三條 日本銀行ノ營業年限ハ開業ノ日ヨリ滿三年トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルヲ得

- 第四條 日本銀行ノ資本金ハ壹千萬圓ト定メ之ヲ五萬株ニ分チ一株貳百圓トス但株主總會ノ決議ニ依リ資本金ノ増加ヲ請願スルヲ得
- 第五條 日本銀行ノ株券ハ總テ記名券トナシ日本人ノ外賣買讓與スルヲ許サス
- 第六條 日本銀行ノ株主トナラントスル者ハ大藏卿ノ許可ヲ受クヘシ
- 第七條 資本金總額五分ノ一即チ二百萬圓ノ入金アルキハ營業ヲ開始スルヲ得ヘシ但シ資本金募集ノ手續ハ定款ヲ以テ定ムル者トス
- 第八條 營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本現入金額ノ内幾分ヲ減少シタルキハ其事由ヲ審明シ資本入金殘額ヨリ其欠額ニ充ツルマテノ金額ヲ追募スヘシ
- 第九條 事業ノ伸張ニ由リ資本入金ノ増加ヲ要スルキハ之ヲ資本入金殘額ヨリ追募スヘシ
- 第十條 純益金總額ヨリ株主割賦金ヲ引去リ其殘額ヨリ少クモ十分



ノ一ヲ左ノ目的ヲ以テ積立金ト爲スヘシ

第一 資本金ノ損失ヲ補フ

第二 割賦金ノ不足ヲ補フ

第十一條 日本銀行ノ營業ハ左ノ如シ

第一 政府發行ノ手形爲換手形其他商業手形等ノ割引ヲ爲シ又ハ買入ヲ爲ス事

第二 地金銀ノ賣買ヲ爲ス事

第三 金銀貨或ハ地金銀ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第四 豫テ取引約定アル諸會社銀行又ハ商人ノ爲メコ手形金ノ取立ヲ爲ス事

第五 諸預リ勘定ヲ爲シ又ハ金銀貨貴金屬并諸証券類ノ保護預リヲ爲ス事

第六 公債証券政府發行ノ手形其他政府ノ保証ニ係ル各種ノ証券

ヲ抵當トシテ當座勘定貸又ハ定期貸ヲ爲ス事但シ其金額及ヒ利子ノ割合ハ總裁副總裁理事監事ニ於テ時々決議シ大藏卿ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條 日本銀行ハ第十一條ニ記載スル事業ノ外ニ左ニ掲クル件々ハ勿論其他諸般ノ營業ニ關涉スルコトヲ得ス

第一 不動産及銀行又ハ諸會社ノ株券ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第二 本銀行ノ株券ニ對シテ貸金ヲ爲シ又ハ此株券ノ買戻ヲ爲ス事

第三 諸工業會社ノ株主タルハ勿論直接間接ヲ問ハス工業ニ關係スル事

第四 本支店出張所ヲ開設スル爲メ必要ナル者ノ外一切他ノ不動産ノ所有主タル事

第十三條 政府ノ都合ニ因リ日本銀行ヲシテ國庫金ノ取扱ヒニ從事セシムヘシ



第十四條 日本銀行ハ兌換銀行券ヲ發行スルノ權チ有ス但シ此銀行券ヲ發行セシムルキハ別段ノ規則ヲ制定シ更ニ頒布スルモノトス

第十五條 日本銀行ハ諸手形及ヒ切手ヲ發行スルヲ得ヘシ

第十六條 日本銀行ハ公債証書ヲ買入又ハ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ大藏卿ノ許可ヲ受クヘキモノトス

第十七條 日本銀行ハ總裁一人副總裁一人理事四人ヲ以テ綜理スルモノトス此外ニ監事三人乃至五人ヲ置クヘシ

第十八條 總裁副總裁ハ任期五ヶ年トシ總裁ハ勅任副總裁ハ奏任トス但任期中ハ他ノ官職ヲ兼任スルヲ得ス

第十九條 理事ハ株主總會ニ於テ撰舉シ大藏卿ノ命スル者トス但創立第一回ハ五ヶ年ノ任期ヲ以テ大藏卿之ヲ特命スヘシ監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ撰舉シ理事監事ノ任期ハ定款ヲ以テ定ムヘシ

第二十條 理事監事ハ任期中他ノ銀行又ハ會社等ノ役員タルヲ許サス

第二十一條 大藏卿ハ特ニ監理官ヲ日本銀行ニ派出シテ諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ

第二十二條 日本銀行ハ本支店出張所及ヒ約定店等ノ營業上百般ノ景況ヲ調査シ少クモ毎月一回之レヲ大藏卿ヘ報告スヘシ

第二十三條 日本銀行ハ本條例ノ旨趣ニ基キ銀行定款ヲ作り政府ノ許可ヲ受クヘシ但シ定款ヲ改正シ又ハ定款外ノ事件ヲ處スルキハ株主總會ニ於テ決議シ政府ノ許可ヲ受クヘシ

第二十四條 政府ハ日本銀行諸般ノ義務ヲ監督シ其營業上條例定款ニ背戾スルコトハ勿論政府ニ於テ不利ト認ムル事件ハ之ヲ制止スヘシ

第二十五條 此條例ヲ改正増削スルキハ其施行ノ日ヨリ三ヶ月以前ニ之ヲ布告スヘシ

○達 大藏省

○明治十六年五月三十日

○第二十三章會社○第四節日本銀行



號外

國立銀行條例追加第一百十二條ニ據リ日本銀行ニ於テ各國立銀行紙幣ヲ消却スルニ付テハ別冊ノ通合同消却方相定候條右ニ準據シ不都合無之様處分可致此旨相達候事

銀行紙幣合同消却方法

第一條 日本銀行ニ於テ各國立銀行ノ紙幣ヲ消却スルハ毎季紙幣消却元資金ヨリ生スル利子ノ金額ヲ準據トシ總体ノ發行高ヲ合同シテ便宜之レヲ消却處分スルモノトス故ニ其年ノ都合ニヨリテハ銀行ノ計算ニ於テ或ハ紙幣發行高ト其實際ノ消却高トニ過不足ヲ生スル事アルヘシト云々終期ニ至リテ悉皆其消却ヲ完了スヘキモノトス

第二條 日本銀行ハ毎季紙幣消却元資金ノ利子ヲ管轄廳ヨリ受取ルルハ其金額ヲ各銀行紙幣發行高ニ對比シテ一行毎ニ其季ノ消却割

付高ヲ算定シ其一覽表ヲ製シテ(六月十五日十二月十五日)迄ニ之レヲ大藏省ニ上呈シ各國立銀行ニハ右期限迄ニ其計算書ヲ發付シテ當季ニ消却スヘキ銀行紙幣ノ割付高ヲ通知スヘシ

第三條 日本銀行ハ前第二條ニ揚クル利子金ヲ以テ消却シタル各銀行紙幣ノ合高ヲ取纏メ其發行店毎ニ之レヲ區別シ其種類員額及記號番號ノ内譯書ヲ添ヘテ之レヲ大藏省ニ納付シ大藏省ヨリ請取証書領收スヘシ

第四條 右ノ受取証書ヲ領受セハ日本銀行ハ各銀行紙幣消却証書(各行ノ紙幣實際ノ消却多寡ニ拘ハラヌ第二條ノ割付高ニ從フヘシ)及實際消却シタル紙幣ノ種類員額記號番號ノ内譯書ヲ各國立銀行ニ送付スヘシ

第五條 各國立銀行ハ右ノ消却証書ヲ得タルキハ紙幣消却ノ旨ヲ大藏省ニ届出テ紙幣下付高ノ内ヨリ該金額ヲ扣除シ元高消除ノ書面



ヲ作り之レテ日本銀行へ送付スヘシ

第六條 各國立銀行ヨリ紙幣消却ノ旨ヲ大藏省へ届出タルキハ大藏省ハ各銀行紙幣實際消却高ノ多寡ニ拘ハラヌ第二條ノ割付消却高ニ從ヒ紙幣抵當公債証書ヲ直チニ各國立銀行ニ下付スルモノトス

第七條 各國立銀行中營業滿期ニ至リ發行紙幣尙殘存スルモノハ日本銀行ニ於テ命令書第三條ニ掲クル公債証書ヲ賣拂ヒ其代金ヲ以テ之レチ消却シ尙殘額アレハ命令書第二條ニ掲クル公債証書ヲ賣拂ヒ其代金ヲ日本銀行ニ預リ置キ以テ右殘存紙幣消却ノ資ニ充ツルモノトス

第八條 各國立銀行中紙幣消却未ク完了セサル場合ニ於テ鎖店スルモノアルキハ日本銀行ハ其銀行ヨリ預リタル紙幣消却元資ヲ還付シ而シテ其銀行ニ係ル實際消却高ト割付消却高トヲ比較シ割付消却高ノ方多額ナルキハ大藏省ニ於テ割付消却高ノ殘額ヲ引換消却

シ實際消却高ト割付消却高トノ差額ハ日本銀行ヨリ他ノ消却元資ヲ上納セシメ大藏省ニ於テ消却處分スルモノトス若又之ニ反シ實際消却高ノ方多額ナルキハ大藏省ニ於テ實際消却高ノ殘額ヲ引換消却シ實際消却高ト割付消却高トノ差額ハ紙幣抵當公債証書ヲ賣却シ其代金ヲ日本銀行へ下付シ他ノ消却元資ニ充タシムヘシ

○明治十六年六月十五日

第三十八號

日本銀行へ國庫金取扱ヲ命シ漸次各地へ國庫金取扱所ヲ設置セシメ候付テハ從前諸達書中大藏省爲換方ト記載有之廉ハ國庫金取扱所ト通視可致候此旨相達候事

○第五節 兌換銀行券條例

○布告

○明治十七年五月二十六日

○第二十三章會社○第五節兌換銀行券條例



第十八號

兌換銀行券條例別紙ノ通制定シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス  
但明治七年(九月)第百號布告ハ此條例布告ノ日ヨリ滿一ケ年ノ後廢  
止ス

兌換銀行券條例

第一條 兌換銀行ハ日本銀行條例第十四條ニ據リ同銀行ニ於テ發行  
シ銀貨ヲ以テ兌換スルモノトス

第二條 日本銀行券ハ兌換銀行券發行高ニ對シ相當ノ銀貨ヲ置キ其  
引換準備ニ充ツヘシ

第三條 兌換銀行券ノ種類ハ壹圓五圓拾圓貳拾圓五拾圓百圓貳百圓  
ノ七種トス但大藏卿ハ各種ニ就テ其發行高ヲ定ムヘシ

第四條 兌換銀行券ハ租稅海關稅其他一切ノ取引ニ差支ナク通用ス  
ルモノトス

第五條 兌換銀行券ハ大藏卿ノ指定スル書式圖形ニヨリ日本銀行ニ  
於テ之ヲ製造シ時々其製造高ヲ大藏卿ニ上申スヘシ但其見本ハ發  
行期日前大藏卿ヨリ告示スヘシ

第六條 兌換銀行券ノ引換ヲ請フ者アルキハ日本銀行本店及ヒ支店  
ニ於テ營業時間中何時ニテモ兌換スヘシ

第七條 金銀貨ヲ持參シテ兌換銀行券ニ引換シテ請フモノアルキ  
ハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ無手数料ニテ之ヲ交換スル者トス

第八條 日本銀行ハ兌換銀行券發行ニ關シ出納日表及ヒ精算月表ヲ  
作り之ヲ大藏卿ニ報告スヘシ

第九條 大藏卿ハ日本銀行監理官ヲシテ特ニ兌換銀行券發行ノ件ヲ  
監督セシムヘシ但監理官ニ於テ必要ナリトスルキハ何時ニテモ其

手許有高及ヒ帳簿ヲ檢査スルコトヲ得  
第十條 兌換銀行券ノ染汚毀損等ニヨリ通用シ難キモノハ日本銀行



本店及ヒ支店ニ無手数料コテ之ヲ引換フヘシ

第十一條 兌換銀行券ノ製造、損券引換及ヒ消却等ノ手續ハ大藏卿之ヲ定ムヘシ

第十二條 兌換銀行券ノ偽造、變造コ係ル罪ハ刑法偽造紙幣ノ各本條ニ照シテ處断ス

○第二十四章 爲替手形約束手形

○布告

○明治十五年十二月十一日

第五十七號

爲替手形約束手形條例

第一章 爲替手形

第一節 爲替手形ノ性質及ヒ法式

第一條 爲替手形ハ振出人ヨリ支拂人ニ當テ記載ノ金額ヲ受取人又

ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ拂渡サシムル証券ヲ謂フ

第二條 爲替手形ニハ左ノ件々ヲ記載シ振出人記名調印ス可シ

一 金額

二 振出ノ年月日及ヒ場所

三 支拂ノ期限及ヒ場所

四 支拂人ノ氏名

五 受取人ノ氏名

六 受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ支拂フ可キ旨

第三條 爲替手形ハ一ノ爲替ニ付キ同文ノ手形ニ通又ハ三通ヲ振出スヲ得此場合ニ於テハ各通ニ番號ヲ附シ内一通ニ對シ支拂ヲ爲シタル時ハ他ノ各通ハ無効タル可キヲ記載ス可シ

第四條 爲替手形ノ金額ハ五圓以上ニ限ル者トス

○第二十四章爲替手形約束手形



第二節 支拂期限

第五條 爲替手形ノ支拂期限ハ左ノ如ク區別ス

一 一覽拂

二 定期拂

三 一覽後定期拂

第六條 一覽拂ノ手形ハ其呈示ヲ受ケタル時直ニ仕拂フ可キ者トス

第七條 定期拂ノ手形ハ手形ニ定メタル期日ニ支拂フ可キ者トス

第八條 一覽後定期拂ノ手形ハ一覽濟ノ日ヨリ其日數ヲ起算シ手形

ニ定メタル期日ニ支拂フ可キ者トス

第九條 一覽拂ノ手形及ヒ一覽後定期拂ノ手形ハ振出ノ日附ヨリ三

ケ月以内ニ之ヲ呈示ス可シ

第十條 定期拂ノ期限ハ振出ノ日附ヨリ一覽後定期拂ノ期限ハ一覽

濟ノ日ヨリ六ケ月以内ト爲ス

第三節 爲替資金

第十一條 振出人ハ支拂人ニ對シ爲替資金ヲ交付スルノ義務アル者トス

第十二條 振出人ヨリ支拂人ニ對シ貸方計算アル時ハ之ヲ以テ爲替

トス資金ニ供用スルコトヲ得

第四節 裏書

第十三條 爲替手形ハ裏書ヲ以テ其所有權ヲ移轉スルコトヲ得

第十四條 裏書ニハ買受人又ハ讓受人ノ氏名及ヒ年月日ヲ記載シ賣

渡人又ハ讓渡人氏名住所ヲ記シ調印ス可シ

第十五條 裏書人ハ振出人及ヒ自己以前ノ裏書人ト共ニ自己以後ノ

裏書人及ヒ手形所持人ニ對シ相連帶シテ償還ノ責任ヲ負フ者トス

第十六條 手形ノ裏面ニ餘白ナキ時ハ補箋ヲ爲シ裏書ヲ爲スコトヲ得

第五節 保証

第十七條 振出人裏書人及ヒ支拂人ハ他人ヲシテ手形ノ支拂ヲ保証



セシムルヲ得

保証人ハ其保証ノ旨ヲ手形又ハ別紙ニ記載スヘシ

第十八條 振出人裏書人ノ保証人ハ本人義務ヲ欠タル場合ニ於テ本人ニ代リ他ノ義務者ト相連帶シテ償還ノ責任ヲ負フ者トス

第十九條 保証人支拂ヲ爲シタル時ハ本人ニ代リ其權利ヲ有スル者トス

第六節 引受

第二十條 定期拂手形及ヒ一覽後定期拂手形ノ所持人ハ支拂人ニ其引受ヲ求ムルヲ得

第二十一條 支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケタル時ハ其旨及ヒ年月日ヲ手形ニ記載シ記名調印スヘシ

第二十二條 支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケタル時ハ振出人身代限ノ處分ヲ受ケタル場合ト雖モ其取消ヲ爲スヲ得ス

第二十二條 支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケタル時ハ所持人ハ引受ノ拒ミ証書ヲ受ク可シ

第二十四條 所持人拒ミ証書ヲ受ケタル時ハ其旨ヲ電信書留郵便其他證據トナル可キ手續ヲ以テ振出人又ハ裏書人ニ通知シテ爲替金額及ヒ諸費用ニ相當スル抵當又ハ保証人ヲ以テ保証ヲ立テシムルヲ得

通知ヲ受ケタル裏書人ハ振出人又ハ自己以前ノ裏書人ニ對シ所持人同一ノ處置ヲ爲スヲ得

第二十五條 振出人又ハ裏書人ノ内既ニ相當ノ保証ヲ立タル者アル時ハ其以後ノ裏書人ハ保証ヲ立ルノ義務ヲ免ル、者トス

第七節 支拂

第二十六條 手形ニ貨幣ノ種類ヲ記シタル時ハ其貨幣ヲ以テ支拂ヲ可シ

○第二十四章爲替手形約束手形



第二十七條 手形所持人ハ支拂期限ニ於テ其支拂ヲ請求ス可シ若シ  
定式ノ祝日祭日或ハ慣習ノ休業日ニ當ル時ハ其翌日之ヲ請求ス可シ  
第二十八條 手形所持人支拂金ヲ受取ル時ハ手形ニ領収ノ旨ヲ記載  
シ記名調印シテ金額ト引換ヘ支拂人ニ交付ス可シ

第二十九條 一ノ爲替ニ付キ手形敷通アル時ハ支拂人ハ其引受ヲ記  
載シタル手形ニ對シ支拂ヲ爲ス可シ

第三十條 支拂人期限ニ至リ手形ノ支拂ヲ爲サ、ル時ハ手形所持人  
ハ支拂ノ拒ミ證書ヲ受ク可シ

第三十一條 支拂ノ拒ミ證書ヲ受ケタル者ハ其旨ヲ電信書留郵便其  
他證據トナル可キ手續ヲ以テ振出人及ヒ各裏書人ニ通知ス可シ

第八節 拒ミ證書

第三十二條 支配人手形ノ引受又ハ支拂ヲ拒ム時ハ手形ニ附箋ヲ爲  
シ其旨及ヒ年月日ヲ記載シ記名調印ス可シ之ヲ拒ミ證書ト爲ス

第三十三條 支拂人拒ミ證書ヲ作ルコトヲ肯セス又ハ其住所分明ナラ  
ズ又ハ不在ニテ代理人ナキ時ハ所持人自ラ其始末ヲ記シ記名調印  
シテ郡區役所若クハ戶長役場ノ証印ヲ受ケ拒ミ證書ニ代用ス可シ  
第三十四條 支拂人身代限ノ處分ヲ受ケタル場合ニ於テハ支拂期限  
前ト雖モ手形所持人ハ拒ミ證書ヲ受クルコトヲ得

第九節 償還ノ要求

第三十五條 手形所持人支拂ノ拒ミ證書ヲ受ケタル時ハ其日附ヨリ  
十五日以内ニ振出人裏書人ノ中一人若クハ數人ニ對シ爲換手形ノ  
金額期限後ノ利子及ヒ拒ミ證書并ニ通知ノ費用ノ償還ヲ要求スル  
コトヲ得

第三十六條 第三十五條ノ要求ニ對シ償還ヲ爲シタル裏書人ハ其日  
ヨリ十五日以内ニ自己以前ノ裏書人又ハ振出人ノ中一人若クハ數  
人ニ對シ自己ノ償還シタル金額及ヒ其利子ヲ要求スルコトヲ得

○第二十四章爲替手形約束手形



第三十七條 振出人ハ爲換資金ヲ支拂人ニ交付シタルノ故ヲ以テ償還ノ要求ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十八條 要求ヲ受ケタル者ハ拒ミ証書ヲ附シタル爲替手形及ヒ証據ヲ添ヘタル計算書ト引換ヘコト非レハ償還ヲ爲スコト及ハス

第三十九條 第九條ノ呈示期限第二十七條ノ支拂請求期限及ヒ第三十五條第三十六條ノ要求期限ヲ忘リタル者ハ裏書人及ヒ爲換資金ヲ交付シタル振出人ニ對シ要求ノ權利ヲ失フ者トス但引受ヲ爲シ若クハ爲換資金ヲ受ケタル支拂人又ハ資金ヲ交付セサル振出人ニ對シ第九條第二十七條ノ期限ニ係ル者ハ振出ノ日附ヨリ起算シ第三十五條第三十六條ノ期限ニ係ル者ハ拒ミ証書ノ日附ヨリ起算シテ三ヶ年間償還ヲ要求スルコトヲ得

第十節 紛失

第四十條 手形所持人手形ヲ紛失シタル時ハ直ニ新聞紙其他ノ方法

ヲ以テ其手形ノ流通ヲ止ムル旨ヲ廣告シ又電信書留郵便其他証據トナル可キ手續ヲ以テ支拂人ニ通知シ其支拂ヲ止メシム可シ

第四十一條 手形紛失人ハ振出人ニ紛失ノ旨ヲ証シ代手形ヲ請受ケ各裏書人ヲシテ再ヒ之ヲ裏書セシメ更ニ其手形ヲ流通スルコトヲ得但振出人ハ手形紛失人ヲシテ保証ヲ立テシムルコトヲ得

第四十二條 手形紛失人代手形ヲ受ケ得サル時ハ支拂期限ニ至リ支拂人ニ對シ真正ノ所持人タル旨ヲ證明シ支拂ヲ請求スルコトヲ得但支拂人ハ手形紛失人ヲシテ保証ヲ立テシムルコトヲ得

第二章 約束手形

第四十三條 約束手形ハ振出人記載ノ金額ヲ受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ自ラ支拂フヘキ旨ヲ約束シタル証券ヲ謂フ

第四十四條 約束手形ハ定期拂コトノ金額ハ貳拾五圓以上ニ限ル者トス

第四十五條 爲替手形ニ付キ定メタル規則ハ第三節第六節其他約束

○第二十四章爲替手形約束手形



手形ノ性質ニ反スル條目ヲ除クノ外之ヲ約束手形ニ適用ス可シ

第三章 通則

第四十六條 第三十五條第三十六條ノ要求期限ハ路程ニ要スル日數  
八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ與フルモノトス

第三十五條第三十六條ノ要求期限及ヒ第九條呈示ノ期限外國ト關  
係スルモノハ其路程ニ要スル相當日數ノ猶豫ヲ與フルモノトス

第四十七條 第一節第四節及ヒ第四十三條第四十四條ノ規程ニ合セ  
サル手形ハ裏書ヲ以テ所有權ヲ移轉スルコトヲ得ス

○告示 大藏省

○明治十六年一月廿九日

第八號

明治十五年十二月第五十七號布告ヲ以テ爲換手形約束手形條例發行

相成候ニ付テハ右手形ニ關スル書式ハ總テ別冊離形ニ準據可致此旨  
告示候事

爲替手形約束手形書式  
第一號

爲替手形書式(條例第二條)

○印朱書

○堅四寸八分

表

○釐八十五分

番號

金、、、圓

割印

爲替手形

印紙

一金、、、圓

番號	仕拂人	受取人	日附	期限

○第二十四章爲換手形約束手形



右金額 來何月何日 受取人氏名  
御一覽次第 何某殿又ハ同人指  
圖人へ此手形引換ニ御仕拂可被成候也

年月日 何府何町何番地  
何縣何村何番地  
何某殿  
何某印  
○振出人氏名

而 何府何町何番地  
何縣何村何番地  
何某殿  
○支拂人氏名

本文金額ノ下ニ西洋數字ヲ以テ更ニ其金額ヲ複記スルモ妨  
ナシ尤數字ハ字々密接ニ認メ改竄ノ弊ヲ防グニ注意スヘシ

第二號

同(條例第三條)

番號

爲替手形

印紙

組之一

表 一金、一、一、一、圓

右金額來何月何日何某殿又ハ同人指圖人へ此手  
形引換ニ御仕拂可被成候也

但此手形御仕拂之上ニ組之二三ハ無効タルヘ  
キ事

面 年月日 何府何町何番地  
何縣何村何番地  
何某印

何府何町何番地  
何縣何村何番地  
何某殿



此手形若シ組ノ二ナルキハ但書ニ組之一三云々ト記シ組ノ三ナルキハ但書ニ組之一二云々ト記スヘシ

第三號

裏書ノ書式(條例第十四條)

。印朱書

買受人又ハ讓受人ノ氏名

裏 表書之金額何某殿又ハ同人指圖人へ御仕拂可被成候也

何府何町何番地  
何縣何村

何 某 印

賣渡人又ハ讓渡人氏名

年月日

第四號

第五號

別紙保証ノ書式(條例第十七條)

番號

裏書補箋ノ様式(條例第十六條)  
。本紙  
。補箋

裏書ノ書式本紙ノ裏書ニ同シ

補箋ヲ付シタル者ノ實印



面	裏

○第二十四章爲換手形約束手形



何 錢  
印 紙

爲換手形

金、圓也

右金額來何月何日何某殿又ハ同人指圖人へ此手形引換ニ御仕拂可被成候也

何 府何町何番地

年 月 日

何 某 印

何 府何町何番地

何 某 殿

右ニ騰寫スル本手形ノ金額何某殿ニ於テ若シ仕拂無之節ハ拙者ニ於テ無相違仕拂可申候也

○保証ヲ受ル者ノ名

何某殿ニ於テ若シ

何 府何町何番地

年 月 日

○保証人ノ氏名  
何 某 印

保証ノ旨ヲ手形面ニ記載スルハ其保証ヲ受ル者ノ氏名ノ次ニ左ノ如ク記載スヘシ

右何某保証人

何 府何町何番地

何 某 印

第六號

引受ノ書式(條例第二十一條)

番號

印 紙

爲替手形

○第二十四章爲換手形約束手形



一金、〃、〃、圓

右金額來ル何月何日何某殿又ハ同人指圖人ハ此手形引換ニ御支拂可被成候也

年月日

何府何町何番地

何某印

何縣何村何番地

何某殿

〇本文支拂之儀引受申候也

〇年月日

何某印

〇支拂人氏名

第七號

金額領收ノ書式(條例第二十八條)

裏書

裏

、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、	、	、

〇第二十四章爲替手形約束手形



面。表面ノ金額正ニ受取候也

年月日

何某印  
手形所持人氏名

第八號

拒ニ証書ノ書式(條例第三十二條)

本手形ノ金額(此ニ拒却ノ事由ヲ記スヘシ)拙者ニ於  
テ引受ノ請求ニ應シ難ク候也

年月日

何某印  
支拂人ノ氏名

第九號

條例第三十三條始末書(支拂人拒ニ証書ヲ作ルヲ肯セサル時  
ノ文例)

別紙爲換手形(規定ノ期限内ニ於テ引受期日ニ至リ  
仕拂)ヲ請來セシニ支拂人何某ニ於テ之ヲ拒ミ且拒  
ニ証書ヲ作ルヲ肯セサルニ付條例第三十三條ニ  
據リ此ニ其始末ヲ自記致シ候也

何府何町何番地  
何縣何村

何某印  
手形所持人氏名

年月日  
前書ノ趣相違無之候也

郡區役所若クハ戸長役場証印



第十號

同(支拂人住所分明ナラサル時ノ文例)

別紙爲換手形(引受仕拂)請求ノ爲メ本手形ニ指示シ  
タル支拂人何某住所何(府縣)何(町村)何番地へ差越  
候處住所不分明ニ付條例第三十三條ニ據リ此ニ其  
始末ヲ自記致シ候也

何府何町何番地

年月日

何某印

前書ノ趣相違無之候也

郡區役所若クハ戸長役場証印

第十一號

同(支拂人不在ナル時ノ文例)

別紙爲換手形(引受仕拂)請求ノ爲メ支拂人何某方へ  
差越候處同人不在ニテ代理人無之ニ付條例第三十  
三條ニ據リ此ニ其始末ヲ自記致候也

何府何町何番地

年月日

何某印

前書之趣相違無之候也

郡區役所若クハ戸長役場証印

第十二號

約束手形書式(條例第四十三條)  
。寸方爲替手形ニ同シ

。印朱書

金、、、、圓

割印

番號	受取人	期限	日附

○第二十四章爲替手形約束手形



番號

約束手形

印紙

一金、、、、圓也

右金額來何月何日貴殿又ハ貴殿ノ指圖人へ此手形引換ニ無相違支拂可申候也

年月日

何府何町何番地

何某印

何府何町何番地

何某殿

○受取人氏名

○振出人氏名

約束手形ニ關スル裏書同補箋保証願收拒ニ証書始末書等ノ書式ハ總テ爲替手形ノ文例ニ準スヘシ

○第二十五章 公債証書

○第一節 金札引換公債條例

○布告

○明治十三年十月廿七日  
第四十七号

明治六年三月第百二十一号布告金札引換公債証書發行條例並改正追加ノ分共更ニ別冊ノ通改定候條此旨布告候事  
改金札引換公債條例

第一章 總則

第一條 金札引換公債証書ハ政府發行ノ紙幣ヲ交換支消スル爲メ發行シ其元利金共ニ金銀貨幣ヲ以テ仕拂フモノトス

第二條 金札引換公債証書ハ記名利札付ニシテ五百圓百圓五十圓ノ

○第二十五章公債証書○第一節金札引換公債條例



三種トス

第三條 何人ニテモ(外國人ヲ除ク)前條ニ記載スル各種証書面ノ金高ノ紙幣ヲ差出シ金札引換公債証書ニ交換スルコトヲ得ヘシ  
(本條ハ十六年第四十八号布告ヲ以テ停止ス)

第四條 金札引換公債証書ヲ以テ交換シタル紙幣ハ大藏省ニ於テ成規ニ遵ヒ之ヲ截斷スヘシ

第二章 元利金ノ仕拂

第五條 金札引換公債ノ元金ハ其証書交付ノ年ヨリ三ケ年据置キ四ケ年目ヨリ向十二ケ年間政府ノ都合ニヨリ抽籤ノ法ヲ以テ消却シ利息ハ一ケ年六分(百分ノ六)トシ元金消却ニ至ルマテ毎年五月十一月ノ兩度ニ拂渡スヘシ

但シ抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂戻スニ當リテハ年六分ノ利息月割(抽籤十五日以前ニ係レハ前月迄ノ分十六日後ニ係レハ半ケ月ヲ下

渡スヘキ者トス)ヲ以テ右抽籤法ヲ行ヒシ時マテノ分下渡スヘシ

第三章 証書ノ交付及ヒ簿記ノ手續

第六條 紙幣ヲ以金札引換公債証書ニ交換セント欲スル者ハ其紙幣并ニ紙幣ノ高ヲ記載シタル交換願書ヲ其地方ノ管廳ニ差出スヘシ

第七條 地方管廳ニ於テハ紙幣ト願書トヲ受取り其受領証ヲ製シ本人ニ渡シ其紙幣ヲ大藏省出納局若クハ其出張所ニ納付シ其預リ証ト共ニ金札引換公債証書申請書ヲ大藏省國債局ニ送付スヘシ

第八條 交換願書ヲ差出シタル者ニ地方管廳ヨリ其受領証ヲ交付スルヲ各月十五日以前ナレハ其月十六日以後ナレハ其翌月ヨリ計算シテ其年利ヲ拂渡スヘシ

第九條 國債局ニ於テハ申請書ニ據リ其金高ニ相當スル公債証書ノ番號記號枚數ヲ定メ其債主ノ住所姓名ヲ簿冊ニ登記シ並ニ割印シタル上ニテ其証書ヲ各債主ノ地方管廳ヘ送達スヘシ

○第二十五章公債証書○第一節金札引換公債條例



第十條 地方管廳ニ於テハ其債主ノ住所姓名及ヒ証書ノ金高種類枚數番號記號ヲ公債掛リノ簿冊ニ登記シ及ヒ証書裏面ノ右側へ債主ノ姓名ヲ記入シ且ツ管廳ノ割印ヲ加へ本人へ渡置キタル受領証ト引換へニ証書ヲ交付スヘシ

但シ証書交付ノ後テ他管ニ移轉シ若クハ他管ヨリ移轉シ來ルモノハ其出入増減表ヲ製シ毎翌月五日マテニ大藏省國債局ニ届ケ出ツヘシ

第十一條 公債証書ト引換ヘタル受領證ノ裏面ニ本人ヲシテ証書ノ受取ヲ記サシメ翌月五日マテニ之レヲ取纏メ明細表ヲ添へ大藏省國債局へ送致スヘシ

第四章 証書ノ様式及ヒ賣渡讓渡ノ手續

第十二條 此條例頒布以後ト雖モ金札引換公債証書ハ従前ノ金札引換公債証書無記名利札付ノ様式ヲ用ヒ不要矛盾ノ文字ハ朱書ヲ以

テ點筆スヘシ

第十三條 金札引換公債証書ノ所有者ニ於テ始メテ之レヲ他人(外國人ヲ除ク)へ賣渡シ若クハ讓渡サントスルモ其証書ヲ其地方管廳へ差出シテ繼足紙ヲ請願スヘシ

管廳ニ於テハ新舊公債証書ニ用フル繼足紙ヲ該証書ノ左側ニ糊付繼印シテ請願人ニ下付シ名前書替ノ手續ヲ爲サシメタル上其檢印ヲ取計フヘシ

但シ利息渡方混淆ヒサル爲メ毎年四月一日ヨリ五月十五日マテ十月一日ヨリ十一月十五日マテ証書ノ讓渡シ買賣ノ届出ヲ見合スヘシ

第十四條 此條例頒布以前交付シタル金札引換公債証書ハ記名無記名ノ分共改定ノ証書ト引換ユヘシ

第十五條 凡ソ此條例ニ明文ナキノ件ハ都テ明治八年(五月)第九十五



号布告改正新舊公債証書發行條例第四條ヨリ第十二條マテ及ヒ右ニ關シ爾來改正増補ノ个條ニ準據スヘシ

○布達 大藏省

○明治十三年十一月二日  
甲第百二十三號

本年十月第四十七號布告(改定)金札引換公債條例ノ内第七條第十一條中受領証申請書ノ書式並ニ紙幣納方ノ順序及ヒ従前發行セシ金札引換公債証書ノ引換手續等左ノ通相定候就テハ従前發行証書ノ所有主ハ本月三十日限右ニ準據シ引換方可申出此旨布達候事

第一條 (改定)金札引換公債條例第七條地方管廳ニ於テ紙幣ト願書トヲ受取り本人ニ渡スヘキ受領証ハ第一號雛形ノ通り又金札引換公債証書申請書ハ第二號雛形ノ通りタルヘシ而シテ紙幣ヲ出納局出

張所へ納メ候分ハ其預リ証書ト共ニ申請書ヲ國債局へ送付スヘシト雖モ當省中出納局へ紙幣ヲ納メ候分ハ紙幣并ニ出納局宛ノ上納証書ト共ニ申請書ヲ國債局へ送付スルヲ得同局ニ於テハ右紙幣ヲ出納局預リ証書ト交換ノ手續ヲ爲スヘシ

第二條 同條例第十一條公債証書ト引換ヘタル受領証ノ裏面ニ本人ヲシテ記サシムル公債証書ノ受取書式ハ第三號雛形ノ通りタルヘシ

第三條 従前發行セシ金札引換公債証書ヲ所有スルモノハ其公債証書并ニ証書ノ金高種類枚數番記號及ヒ引換請願ノ旨ヲ記載シタル書面ト共ニ其地方管廳へ差出スヘシ管廳ニ於テハ該証書ノ預リ証書ヲ本人へ付與シタル上該証書并ニ請願書トモ國債局へ送付シテ公債証書渡方ノ請求ヲ爲スヘシ

第四條 國債局ニ於テハ右書面ニ據リ其金高ニ應シ相當ノ割合(従前發行証書千圓券ハ五百圓券ヲ以テ又五百圓券ハ都合ニ寄り百圓券



取交セ引換へ渡スニシ)ヲ以テ金高枚數ヲ定メ其姓名管轄宿所族籍  
ヲ簿冊ニ登記シタル上其証書ヲ各債主ノ地方管廳へ送達スヘシ  
第五條 地方管廳ニ於テハ其債主ノ名面及ヒ証書ノ金高種類枚數番  
記號ヲ公債掛ノ簿冊ニ登記シ証書へ債主ノ名面ヲ記入シ且ツ管廳  
ノ割印ヲ加へ本人へ最前渡シ置キタル預リ証ト引換へニ渡方ヲ爲  
スヘシ

第六條 従前發行ノ証書ニ對スル本年分ノ利金本年ニ至リ發行ノ分  
(月割ヲ以テ渡スヘキ金利トモ)ハ是迄ノ通り十二月一度ニ相ヒ渡シ  
來十四年ヨリ條例第五條ノ通り兩度ニ渡スヘシ  
(離形書式ハ零ス)

○第二節 新舊公債証書發行條例

○布告

○明治八年五月廿五日

第九十五号

新舊公債証書發行條例

明治五壬申年マテノ間從來舊諸藩縣ニ於テ内國人民ヨリノ進債ヲ  
改メテ政府ノ公債トシ之レヲ大藏省ニ引受ケ其債主ヘハ各此公債  
証書ヲ交付シ定期ヲ逐テ之レヲ償却スルニ付キ政府ニ於テ制定シ  
タル條々左ノ如シ

第一條 (新舊公債ノ區別及ヒ証書ノ種類記號ノ品別等ヲ明ニス)  
第一節 弘化元甲辰年ヨリ慶應三丁卯年マテ舊諸藩ニ於テ借用シタ  
ルモノヲ舊公債ト稱シ明治元戊辰年太政更始以後明治四辛未年七  
月廢藩マテ及ヒ明治五壬申年迄ノ間舊諸縣ニ於テ借用シタルモノ  
ヲ新公債ト稱スヘシ  
第二節 新舊公債トモ各其高ヲ五分シテ第一第二第三第四第五トシ  
証書面ノ金高ヲ五百圓三百圓一百圓五十圓二十五圓ノ五種ニ區別

○第二十五章公債証書○第二節新舊公債証書發行條例



第三節 新公債証書ハ向後抽籤ノ方法ヲ以テ其元金ヲ償却スヘキニ付便宜ノ爲メ四十七部ニ別テ(いろは)四十七字ノ記號ヲ証書面ニ命名スベシ

第二條 (新公債償却年度及ヒ利息ノ割合ヲ明カニス) 第一節 舊公債ハ無利息ニシテ元金ハ明治五年壬申ヨリ明治五十四年迄五十年賦トシ其年ノ拂方ニ當リタル賦金ヲ毎年十二月一日ヨリ同十五日マテノ間ニ之ヲ拂渡スヘシ

第二節 新公債ハ利息付ニシテ明治八年ヨリ明治二十九年迄二十二年ノ間ヲ限リ大藏省ノ都合ニヨリ毎年或ハ隔年ニ抽籤ノ方法ヲ以テ其年ニ拂戻スヘキ証書ノ記號ヲ公定シ其割合ニ隨テ之レヲ拂戻スヘシ其利息ハ年々元高百分ノ四分トシ明治五年壬申ヨリ明治二十九年マテ毎年六月一日ヨリ十五日迄(圈點ヲ施ス十字ハ明治九年四月十七日第五十號布告ヲ

以テ追加シテ)十二月一日ヨリ十五日迄ノ間ニ之レヲ拂渡スヘシ(本ルモノニ係ル)十二月一日ヨリ十五日迄ノ間ニ之レヲ拂渡スヘシ(本文總テ其金額ハ大藏省ノ都合ニヨリ金銀貨又ハ紙幣ヲ以テ之ヲ下渡スヘシ)

但シ明治八年ヨリ抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂ヒ戻スニ當リテハ年四分ノ利息月割ヲ以テ右抽籤法行ヒシ月マテノ分下ケ渡スヘシ 第三條 (公債証書ノ渡方及ヒ其簿記ノ手續ヲ明ニス)

第一節 新舊公債証書共各債主ヘ交付スルニハ大藏省ニ於テ其金高及ヒ新舊ノ區分共調査シテ後ヲ之レヲ簿冊ニ登記シ証書五種ノ區別(新公債ナレハ四十七種ノ記號)中ニ於テ其金高ニ應シ相當ノ割合ヲ定メ其証書ハ簿冊ニ割印シテ各債主ノ地方管廳ニ送達ス可シ但シ此ノ公債証書ヲ其地方管廳ニ送達スルニハ勿論其債主ノ名目面金高証書等ノ種類等詳明ニ目錄書ヲ添ヘテ相渡スヘシ 第二節 地方管廳ニ於テハ別ニ公債掛ノ局ヲ設ケ各種ノ簿冊ヲ備ヘ



大藏省ヨリ渡サレタル証書ヲ點檢シ其債主ノ名面及ヒ証書ノ金高種類ヲ分別シテ之レヲ簿冊ニ登記シ且ツ其証書裏面へ悉ク債主ノ名面ヲ記入シ管廳ノ割印ヲ加ヘテ其渡方ヲ取計フヘシ

第四條 (舊公債証書元金年賦並ニ新公債証書ノ利息渡方手續等ヲ明カコス)

第一節 (明治九年四月十七日第五十號布告ヲ以左ノ通り改正ス)

毎年舊公債元金年賦並ニ新公債利足下渡方ハ各地方ハ官ニ於テ各管下ノ公債証書所持人ノ數ヲ取調其年ノ渡方ニナルヘキ利息並ニ元金年賦共金額内譯合計表ヲ作り新公債上半季ノ利金表ハ五月十日マテ下半季ノ利金表及ヒ舊公債年賦金表ハ十一月十日マテ毎年大藏省へ差出スヘシ

第二節 大藏省ヨリ右合計表ニ從テ其下渡スヘキ金高ヲ拂場所へ廻送ノ手續ヲ爲シ臨時官員出張スルカ又ハ其地方官ニ委任シ都テ証

書ノ下ニ附添スル其年ノ拂方ニ屬スル小札ヲ切取リ引換ニ其拂方ヲ爲スヘシ

第三節 右切取リタル小札ハ其拂方ヲナシタル明細調書ト共ニ直チニ之ヲ大藏省ニ送納スヘシ

第五條 (新公債証書拂方諸般ノ手續ヲ明ニス)

第一節 新公債証書ノ元金拂方ヲ爲スニハ毎年又ハ隔年大藏省ノ都合ニ從ヒ抽籤ノ法ヲ以テ拂渡ス可シ

右抽籤ノ法ハ証書ノ記號ヲ明コシ其年拂戻ス可キ金高ヲ定メ此金高ニ証書ノ高チ部分シ東京或ハ大坂等証書ノ金額最モ多キ場所へ國債寮ノ官員出張シテ其地方ノ長官及ヒ公債掛リ立會ノ上管下ノ証書所持人十八人以上ヲ集メ眼前ニ於テ籤ヲ抽キ其籤ニ當リシ部分ヲ其年ノ拂戻スヘキモノト定ムヘシ

第二節 抽籤ノ處置相濟ニ賦當ノ記號公定スレハ立會タル証書所持



人等ヨリ其抽籤ノ方法公正ナル事ヲ保証スル爲メ書面ヲ出サシメ然ル後何記號証書ハ何月何日何處ニ於テ拂戻ス可シト云フヲテ布告書又ハ新聞紙ニテ普ク世上ニ公告ス可シ

第三節 右拂場所ヘハ大藏省ヨリ拂戻スヘキ金高ノ廻送ヲ爲シ公債拂方ノ官員出張シテ(時宜ニヨリテ地方官ニ委任スルヲアル可シ)其籤ニ當リタル証書引換ニ其拂方ヲナシ其証書ハ拂濟ノ証ヲ印シ明細書ト共ニ直ニ大藏省ニ送納スヘシ

第四節 右拂方ノ取扱ハ(年賦又ハ利息拂方トモ)大藏省ノ都合ニヨリテ追テ各地ニ創立スヘキ國立銀行ニ命ジ名代人トシテ其處置ヲ爲サシムルヲアルヘシ

○明治十二年七月五日第二十六號布告ヲ以テ左ノ通り第五節ヲ追加ス  
第五節 凡ソ公債元金並ニ利賦金拂渡ノ際其期日ヲ失シ受取方申出テス其拂渡スヘキ年ノ翌年ヨリ向五ヶ年ヲ過クルルキハ一切之レヲ

拂渡サズ証書所持主ノ損失ナルヘシ然レハ其受取リ難キ事由ヲ該期限内ニ其管廳ニ申出テ認可ヲ經タル者ハ此限ニ在ラス

但シ起業公債証書記名無記名モ本節ニ準ス又次條改正追加ノ内第十二節ヲ除キ該公債記名証書ニ適用スルモノトス  
第六條 (新舊公債証書受授賣買等ノ手續ヲ明ニス)

第一節 (明治十三年六月七日第三十號布告ヲ以テ左ノ通り改正ス)  
新舊公債証書共全ク所持人ノ所有物ナレハ他人(外國人ヲ除ク)ニ讓渡賣渡質入等都テ勝手タルヘシ尤モ死者又ハ失踪者遺留ノ公債証書并ニ養子ノ戸主離縁復籍スルキ其養家ニ屬スル公債証書ハ特約アルモノ、外總テ其遺留財産ヲ相續スヘキモノ、所有ニ歸スルモノトス

但本文讓渡賣渡ハ第二節以下ノ手續ニ照準スヘク又死亡失踪離縁ニヨリ遺留セル証書ハ此條例附錄第二圖ノ振合ニ依テ名面書



替ノ上管廳ノ檢印ヲ受クヘシ

第二節 証書ヲ受授及ヒ賣買スルニハ双方示談整ヒシ上ニテ甲ノ方  
(譲リ主賣主ナ云フ)ハ証書裏面ヘ形ノ通り(裏面離形)記名調印シテ別  
ニ其証書ノ種類記號番號金高枚數月日及ヒ乙(受クル者買人ナ云フ)  
ノ姓名等ヲ認メ其証書ト共ニ甲ヨリ之レヲ其管廳ニ差出スヘシ

○明治十四年八月二十五日第四十一號布告ヲ以テ左ノ通り但書ヲ追  
加ス

但シ裁判所ニ於テ公賣スル証書ヲ買受ケタル者又ハ裁判所ノ言  
渡ニヨリ流質トナリタル証書ヲ有スル者此ノ條例附錄第三圖ノ  
振合ニ依テ名面書替ノ上裁判所ヨリ管廳ヘノ通知書ヲ添ヘ管廳  
ノ檢印ヲ受クヘシ

第三節 管廳ノ公債掛ハ右証書ト届書トヲ受取り其次第ヲ承リ正シ  
証書裏面ヘ形ノ如ク(裏面離形)年號月日ヲ記シ檢印シテ之ヲ差出セ

シ者ヘ下渡シ其趣ヲ簿冊ニ詳記シ大藏省ヘハ翌月五日迄ニ届出ヘシ

第四節 (明治十二年七月五日第二十六號布告ヲ以テ本節中「若シ遠隔  
ノ地方云々以下罰金ヲ命スヘシ」ノ百二字ヲ削除ス)

右ノ手續ニテ檢印済ノ証書ヲ甲ヨリ乙ヘ渡シタルトモ同管  
下ノ者ナレハ別ニ届書ヲ出スニ及ハスト雖モ管轄違ナレハ其証書  
ノ種類記號番號枚數及ヒ甲ノ姓名年號月日ヲ詳記シテ乙ヨリ其管  
廳ヘ速ニ届出ヘシ

但シ利賦金拂方施行中ニ讓受買受ノ証書他ノ地方ヨリ増加シ來  
ル分ハ先ツ買主ノ届出ヲ聞届最初ノ拂方相濟シ上ニテ利賦金受  
取方追加表ヲ製シ尙大藏省ニ差出スベシ

第五節 乙ノ地方管廳ニテハ右ノ届出アレハ前以テ備置キタル公債  
簿冊ヘ其証書ノ金高種類記號番號枚數及ヒ其名面取引ノ年號月日  
ヲ登記シ且ツ証書ヘ割印シテ下渡スヘシ

○第二十五章公債証書○第二節新舊公債証書發行條例



第六節 右ノ手續ヲ以テ引取リタル証書ヲ更ニ他人ニ(外國人ヲ除ク)讓渡スルキモ都テ前條ノ手續ニ從テ之ヲ處置スヘシ

第七節 (明治十二年七月五日第二十六號布告ヲ以テ本節中「若其送達云々違令ノ罪ニ處スヘシ」ノ四十字ヲ削去ス)

新舊公債証書ヲ管轄違ヒニテ讓渡賣買等ノ事アレハ甲ノ地方管廳ヨリハ即日乙ノ地方管廳ヘ其証書ノ種類記號金高及ヒ名面取引ノ年月日ヲ詳記シ送達スルキ直チニ公債牒簿上ヲ削除スヘシ尤モ此時証書ヘ割印ヲ爲スコ不及乙管廳ニテハ右送達書ヲ得タレハ直チニ其旨ヲ甲管廳ヘ回報スヘシ尤モ甲管廳ヨリ乙管廳ヘ送達ノ封書ヲ都合ニ因テ讓受買受人ヘ托シテ送達スルモ妨ケナシ且ツ大藏省ヘハ一月分翌月五日マテニ甲乙管廳ヨリ互ニ届出ヘシ但シ乙ノ管廳ニテハ右送達之レナキ間ハ其証書賣買スルキ差留置クヘシ

第八節 新舊公債証書所持ノ者管轄替相成ル節ハ甲ノ地方管廳ヨリ乙地方管廳ヘ相達スル儀ハ第七節ノ通りタルヘシ本人ハ所持ノ証書種類記號番號金高枚數及ヒ轉籍ノ年號月日住居ノ地名等詳記シ乙管廳ニ届出ヘシ管廳ニテハ公債簿冊ニ登記シ証書ヘ割印シテ下渡スヘシ

第九節 他ノ府縣ヨリ寄留ノモノ新舊公債証書ヲ讓受ケ買受ケントスルキハ寄留地ノ管廳ニ申立管廳ニテハ本管ノ人民同一ノ取扱ヲ爲スヘシ就テハ年々元利金モ其廳ヨリ拂渡スヘシ但シ後日本籍ヘ復皈スルキハ本人ヨリ即日管廳ヘ届出ヘシ管廳ニテハ復歸ノ地方廳ヘ通達方并ニ本人届方等第八節ノ通りルヘシ

第十節 新舊公債証書所持ノモノ他ノ府縣ヘ寄留スルキハ年々元利拂及ヒ讓渡シ賣渡シトモ寄留地管廳ノ主務ト爲スコ付キ寄留セン



トスル者ハ証書ノ種類記號番號金高枚數トモ本管廳へ届出ヘシ本  
 管廳ニテハ寄留地ノ管廳へ送達シ寄留地ノ管廳是ヲ受ケテ取扱チ  
 爲ス手續ハ第七節第八節ニ照準スヘシ若シ其身他へ寄留スト雖モ  
 都合ニ因テ公債証書ハ本貫へ殘シ置キ年々元利受取或ハ讓渡賣渡  
 ヲ爲ス如キハ寄留地管廳ニテ與カルナカルヘシ然レモ所持高ノ  
 内都合ニ因リ幾分カ引分ケ寄留先へ携帶スルモ其分ヲ本管廳へ  
 届出本管廳ヨリ寄留地ノ管廳へ送達ノ手續ハ前條ニ記載セル通ク  
 ルヘシ尤モ本籍へ殘シタル証書ハ本管廳ノ所轄勿論ニシテ年々元  
 利受取或ハ讓渡賣渡等本人ヨリ委任状ヲ與フヘシ代理人ヲ以テ其  
 取扱チ爲ス妨ケナカルヘシ  
 但シ後日本籍へ復歸スルモ第九節但書ノ通りタルヘシ  
 第十二節（明治十二年七月五日第二十六號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス）  
 都テ讓渡シ又ハ賣買等ハ相對ノ約定ヲ以テ其所有權ヲ轉移スルチ

得ヘシ然レモ前各節ノ手續チ了セサル間ハ其讓受ケ主買主ニ於テ  
 假令其証書ヲ所持スルトモ利賦利金及ヒ元金ハ官簿ニ記載ノ債主  
 ニアラサレハ下渡サヌ又証書紛失等ヨリ代リ証書ヲ願出ルモ亦同シ  
 第十二節（明治九年四月十七日第五十號布告明治十年三月二十八日  
 第三十四號布告明治十一年八月二十八日第二十二號布告及ヒ明治  
 十二年七月五日第二十六號布告ヲ以テ本節ヲ改正並ニ追補ス乃チ  
 左ノ如シ）  
 毎年六月一日ヨリ十五日マテニ新舊公債利息渡方并ニ十二月一日  
 ヨリ十五日迄ニ新公債利息舊公債元金年賦渡方ヲ爲スニ付キ五月  
 一日ヨリ六月十五日迄十一月一日ヨリ十二月十五日迄ハ各地方証  
 書所持人ノ混淆セサル爲メ右証書ノ讓渡賣買ノ届出ヲ見合スヘシ  
 ○明治十二年七月五日第二十六號布告ヲ以テ第十三節及ヒ第十四節  
 ナ追加ス



第十三節 公債証書ヲ諸官廳ノ所有トシテ引受ル節ハ其廳主掌官ノ官名姓名ヲ記シ讓渡等ノ節ハ其官印(官印ナキハ其實印)ヲ捺スヘシ

○明治十三年六月七日第三十號布告ヲ以テ本節ヘ左ノ通り但書ヲ追加ス

但シ記名者代換ノ時ハ次節ノ手續ニ照準スヘシ

第十四節 (明治十三年六月七日第三十號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)

銀行及ヒ公認シタル會社學校又ハ町村組合等ノ類共同合資ニシテ所有主一個人ニ限リ難クトモ其內主長タル者又ハ証書管保ノ責ニ任スル者等一個人ノ姓名ヲ記シ肩書ニ其責任タル名義ヲ記シ(例ヘハ學校ハ其取締又ハ世話掛銀行又ハ會社ハ頭取其支店ハ支配人町(村)組合ハ總代人等何レモ其責任タル名目ヲ肩書ニシ以テ一個人ノ私有ニ非ラサルコトヲ明ニスルノ類)而シテ讓渡其他一切右記名者ノ實印ヲ以テ取引致スヘシ右記名者代換等ノ節ハ右ノ類ニ限リ代任ノ者ヘ引繼キ証書書換ニ及ハスト雖モ代換ノ譯及ヒ其肩書姓名

印影ヲ管廳ヘ届出スヘシ其廳ニ於テハ簿册ヘ其譯并ニ名面年号月日等ヲ登記シ置クヘシ

但シ是マテ銀行會社學校等ニ於テ記名者ヲ定メス所有スル向ハ証書書換ニ及ハス本節ニ照ラシ記名者ヲ定メ管廳ヘ届置ク可シ

向後讓渡其他一切本節ニ照準シテ取引致ス可シ

第七條 (新舊公債証書引當物等ニナシタル處置ノ手續ヲ明ニス)

第一節 新舊公債証書借金ノ引當又ハ質物ノ證據金トシ所持人ヨリ他ニ預ケ置クコトアリトモ其拂戻ス可キ元金利息ハ其所持人ヘ下渡ス可シ尤モ本人調印ノ委任狀ヲ持參セルキニハ(外國人ヲ除クノ外)何人ヘナリトモ相渡ス可シ

第二節 若シ又質入流込ニトナリタル類ハ讓リ渡賣買ノ手續ヲ爲ス

一第六條第二節第三節第四節ノ通タル可シ

第八條 (新舊公債証書共裏面並ニ引換等ノ手續ヲ明ニス)



第一節 新舊公債証書讓渡賣買頻繁ニシテ裏面記名ノ場所ナキニ至ル時ハ其所持人ハ書面ヲ以テ其地方管廳ニ申立証書ノ繼足ヲ願ヒ其証書ヲ差出スヘシ

第二節 地方管廳ニテハ其証書ノ假受取ヲ所持人ニ渡シ置キ証書ヘハ兼テ大藏省ヨリ渡置タル記名紙ヲ補足シ割印シテ其次第年號月日等ヲ簿冊ニ記入シ假受取ト引換ニ之レテ其所持人ニ渡スヘシ

第九條 (新舊公債証書共紛失等ノ處置ヲ明ニス)

第一節 新舊公債証書ノ所持人若シ証書ヲ取失フカ又ハ盜難ニ逢テ証書ヲ盜取レシキハ何號何番何高ノ証書幾許ヲ紛失又ハ盜取ラレタル由ヲ直ニ其地方管廳ヘ届出管廳ヨリ之ヲ大藏省ヘ届出ヘシ但シ管廳ニテハ大藏省ヘ届出ルキ管內ニ其趣ヲ布達スヘシ  
第二節 大藏省ニテ右ノ届書ヲ受取レハ速ニ其趣并ニ証書種類番記號枚數等ヲ掲ケ何月何日後日ハ右証書ヲ取引スヘカラス又何人ニ

限ラス所持致居候ヲ見聞候者ハ速ニ管轄廳ヘ訴出管轄廳ヨリハ即チ大藏省ニ届出ヘキ旨ヲ布達ス地方管廳ニテハ即チ右ノ旨ヲ新聞紙其他ノ手續(新聞紙ナキ地ハ村町高札場ニ揭示セシム)ヲ以テ紛失又ハ盜取ラレシ月ヨリ七ヶ月間管內ニ公布ス可シ

第三節 右公布ノ間ハ其證書ノ元金又ハ利息共之ヲ拂ヒ渡サ、ル可シ

第四節 七ヶ月ヲ過キ其證書發見セサレハ大藏省ニテ其證書ニ換フ可キ新證書ヲ作シ其地方管廳ヲ通シテ之レヲ所持人ヘ交付ス可シ尤モ公告時間中ニ積リタル元利ノ高ハ其新證書ヲ渡シタル次ノ拂期月ニ一同ニ之ヲ拂渡ス可シ

但シ此ノ新證書ヲ渡ス時元證書ノ記號其外紛失又ハ盜難ニ付此條々ノ手續ヲナセシ後チ更ニ交付スルノ趣意ヲ大藏省及ヒ其管廳ノ簿冊ニ記入ス可シ

第十條 (新舊公債証書共燒失等ノ處置手續ヲ明カニス)



第一節 水火災ニテ証書流失焼失ノ事アレハ所持人ハ前條ノ手續ニ從テ書面ニテ其由ヲ管廳ニ申立テ新証書下渡方ヲ乞フヘシ

第二節 管廳ニテハ其流失焼失ノ次第ヲ推糺シ判然スレハ直チニ其次第及ヒ推糺ノ手續ヲ大藏省ニ申立ツヘシ

但シ其流焼失若シ判然スラサレハ第九條紛失ノ手續ニ從テ之ヲ處置スヘシ

第三節 大藏省ニテハ其申立ニ從テ代リ証書ヲ作ル之ヲ其管廳ニ送達シテ所持人ニ交付スヘシ

但シ証書流焼失ニ付キ新証書交付ノ趣旨ハ大藏省地方官ノ簿冊ニ詳記スヘシ

第四節 若シ又水火災ニテ其証書ノ部分焼切レ又ハ消滅シテ通用シ難キ程ナレハ所持人ハ証書ノ殘紙ヲ添ヘ書面ニテ其由ヲ其管廳ニ申立証書ノ書替ヲ乞フヘシ

第五節 其管廳ニテハ其証書ノ殘紙ヲ添ヘ書面ニテ大藏省ニ申立書替証書ヲ得テ之レヲ下渡ス可シ

但シ其書替ノ手續ハ大藏省地方官ノ簿冊ニ詳記スヘシ

第十一條 (新舊公債証書贗造等ノ處分ヲ明ニス)

第一節 何人ニ不拘公債証書ヲ故ラニ剝去リ又ハ切裂キ又ハ塗抹シ孔ヲ穿チ糊付コスル等ノ事ヲ爲ス可カラズ若シ犯ス者アラハ裁判ノ上其金高十倍以下ノ罰金ヲ命ス可シ

但シ舊公債証書ハ年賦拂濟ノ金高ヲ引去リ殘餘ノ小札金額ニ依テ計算シ罰金ヲ當ル者トス

第三節 何人ヲ論セス此ノ公債証書ヲ贗造シ又ハ人ヲシテ之ヲ摸擬センメ又ハ人ノ贗造スルヲ助ケ又ハ贗造ト知リテ通用セシメ又ハ証書ノ圖畫文字ヲ變換シ又ハ人ヲシテ變換セシメ又ハ變換セシモノト知リテ之レヲ通用シ其他似寄ノ板版紙品雛形ノ圖畫文字等ヲ



所持スル者ハ都テ裁判ノ上法ニ處スヘシ

第十二條

第一節 政府ノ都合ニヨリテ要用ノ事アレハ利息及ヒ償却年限ヲ除クノ外此條例ヲ增補シ又ハ之ヲ改正スルコアルヘシ

第二節 右增補改正等アレハ速ニ其由ヲ世上ニ公告スヘシ  
証書讓(賣渡)裏面雛形

一 此証書是迄拙者所持ノ處貴殿へ賣渡候事實正也

割

明治 年 月 日

甲 某印

何府 下何大區何小區何町何番地

乙 某 殿

本文之通相違無之者也

何府

公債掛

明治 年 月 日

何 某印

乙某寄留人ナル者ハ左ノ通

本貫何(府縣華士族カ平民カ)

何(府縣)下何大區何小區何町何番地寄留

何所何番地居留

乙 某 殿

右ノ通タルヘシ尤モ施行濟ノ分ハ此限ニ非ラス

○明治八年八月廿四日  
第百三十号

明治七年(三月)第三十九號布告家祿引換公債証書發行條例自今相廢止  
候條左ノ二ヶ條ノ外諸般ノ手續總テ本年(五月)第九十五號布告新舊公  
債証書發行條例ノ通可相心得此旨布告候事

一家祿引換公債証書ノ元金拂渡ハ家祿引換相渡候三ヶ年目ヨリ七ヶ  
年ノ間ニ政府ノ都合ニ寄リ抽籤ノ法ヲ以テ拂渡ス可シ

○第二十五章公債証書○第二節新舊公債証書發行條例



一(明治十年三月二十八日第三十四號布告明治十一年八月廿八日第二十二號布告及ヒ明治十二年七月五日第二十六號布告ヲ以テ此條ヲ左ノ通り改正ス)

年八朱ノ利息ハ年々十一月一日ヨリ十五日マテニ拂渡スニ付キ証書所持人混淆セサル爲メ十月一日ヨリ十一月十五日マテ証書ノ賣買讓渡等ノ届出ヲ見合各管廳ニ於テ十月一日証書所持人ノ數ヲ取調ヘ其季ノ拂方ニナルヘキ名面並金高内譯合計表ヲ作り同月十五日マテニ大藏省ニ差出スヘシ

○明治十年三月十三日  
第三十二号

各社領朱黒印地並ニ除地收領中ヨリ從前配當受來候舊神官ノ輩ハ右配當高ヲ別紙祿制ニ引充候上金額ニ換ヘ五ヶ年分ノ合計配當祿公債証書ヲ以テ一時ニ下賜候條右公債証書ハ明治八年(八月)第百十三號布

告ノ通可相心得此旨布告候事

但配當米金受來候者ハ確正相添來ル四月三十日限り其管轄廳へ可申出若シ右期限後ニ至リ如何様ノ事情申出候共採用不相成候條此旨兼テ可相心得事

別紙

祿制

配當現米

祿制現米

千石以上	三百石
千石未滿	二百八十石
九百石迄	二百六十石
八百石迄	
八百石未滿	

○第二十五章公債証書○第二節新舊公債証書發行條例



七百石迄

二百四十石

七百石未滿

二百二十石

六百石迄

二百石

六百石未滿

五百石迄

百六十二石五斗

五百石未滿

四百石迄

百二十五石

四百石未滿

三百石迄

八十七石五斗

三百石未滿

二百石迄

五十石

二百石未滿

百石迄

四十五石二斗二升

百石未滿

九十石迄

四十石四斗四升

九十石未滿

八十石迄

三十五石六斗七升

八十石未滿

七十石迄

三十石八斗九升

七十石未滿

六十石迄

二十六石一斗一升

六十石未滿

五十石迄

二十一石三斗三升

五十石未滿

四十石迄

○第二十五章 公債証書 ○第二節 勸借公債証書發行條例



四十石未滿	十六石五斗八升
三十石迄	
三十石未滿	十一石七斗八升
二十石迄	
二十石未滿	七石
十石迄	
十石未滿	五石
五石迄	
五石以下	從前之通

○第三節 金祿公債証書發行條例

○布告

○明治九年八月五日

第百八號 金祿公債証書發行條例

第一條 華士族及ヒ平民トモ各自ノ家祿賞典祿給與ノ制限ヲ改メ一

時ニ之ヲ下渡スコト爲シ以テ公債証書ヲ附與ス可シ

一 永世祿ノ者ヘハ

金祿元高(賞典祿アルモノハ家祿ニ合計シ元高トス)年限

七方圓以上	五ヶ年分
(七方圓未滿六萬圓以上)	五ヶ年二分五厘分
(六方圓未滿五萬圓以上)	五ヶ年半分
(五方圓未滿四方圓以上)	五ヶ年七分五厘分
(四方圓未滿三方圓以上)	六ヶ年分
(三方圓未滿二萬圓以上)	六ヶ年二分五厘分
(二方圓未滿一方圓以上)	六ヶ年半分



- (一) 万圓未滿七千五百圓以上 六ヶ年七分五厘分
  - (七千五百圓未滿五千圓以上) 七ヶ年分
  - (五千圓未滿二千五百圓以上) 七ヶ年二分五厘分
  - (二千五百圓未滿千圓以上) 七ヶ年半分
- 右一ヶ年五分ノ利子ヲ給ス
- (千圓未滿九百圓以上) 七ヶ年七分五厘分
  - (九百圓未滿八百圓以上) 八ヶ年分
  - (八百圓未滿七百圓以上) 八ヶ年二分五厘分
  - (七百圓未滿五百圓以上) 八ヶ年半分
  - (六百圓未滿五百圓以上) 八ヶ年七分五厘分
  - (五百圓未滿四百五十圓以上) 九ヶ年分
  - (四百五十圓未滿四百圓以上) 九ヶ年七分五厘分
  - (四百圓未滿三百五十圓以上) 九ヶ年半分

- (三百五十圓未滿三百圓以上) 九ヶ年七分五厘分
  - (三百圓未滿二百五十圓以上) 十ヶ年分
  - (二百五十圓未滿二百圓以上) 十ヶ年二分五厘分
  - (二百圓未滿百五十圓以上) 十ヶ年半分
  - (百五十圓未滿百圓以上) 十一ヶ年分
- 右一ヶ年六分ノ利子ヲ給ス
- (百圓未滿七十五圓以上) 十一ヶ年半分
  - (七十五圓未滿五十圓以上) 十二ヶ年分
  - (五十圓未滿四十圓以上) 十二ヶ年半分
  - (四十圓未滿三十圓以上) 十三ヶ年分
  - (三十圓未滿二十五圓以上) 十三ヶ年半分
  - (二十五圓未滿以下) 十四ヶ年分
- 右一ヶ年七分ノ利子ヲ給ス

○第二十五章公債証書○第三節金祿公債証書發行條例 七百三十三



一終身祿ノ者ヘハ

右永世祿年限十分ノ五ヲ給ス

但利子ハ永世祿ノ割合ニ同シ

一年限祿ノ者ヘハ

十年以上ノ者ヘハ右永世祿年限十分ノ四ヲ給ス

(十年未滿八年以上)ノ者ヘハ右永世祿年限十分ノ三五ヲ給ス

(八年未滿六年迄)ノ者ヘハ右永世祿年限十分ノ三ヲ給ス

(六年未滿四年迄)ノ者ヘハ右永世祿年限十分ノ二五ヲ給ス

(四年未滿三年迄)ノ者ヘハ右永世祿年限十分ノ二ヲ給ス

二年ノ者ヘハ右永世祿年限十分ノ一五ヲ給ス

但利子ハ永世祿ノ割合ニ同シ

第二條 此ノ公債証書ノ利子下渡シハ明治十年分ハ十一月翌年五月

ニ相渡シ以後之ニ準シ年々兩度ニ下ケ渡スコトス

○明治十二年九月十三日第二十六號布告ヲ以テ左ノ但書ヲ追加ス

但シ利子下ケ渡シ混淆セサル爲メ毎年四月一日ヨリ五月二十八日

マテ十月一日ヨリ十一月廿八日マテハ証書ノ讓渡シ賣買等ノ届出

(點ヲ施ス三字ハ明治十二年七月五日第廿六號布告ヲ以テ追加シタルモノニ係ル)ヲ見合ス可シ

第三條 家祿賞典祿元高ヲ附與スル年限ヨリテ利子ノ差異ヲ生ス

ルキハ元高ニ向テ公債証書ヲ付與スル年限左ノ如シ

譬ヘハ

一金壹萬圓 家祿賞典祿合高

此六ヶ年半分金六萬五千圓此公債証書ノ利子一ヶ年五分金三千

二百五十圓ト成ル

一金九千九百圓 家祿賞典祿合高

此六ヶ年七分五厘分金六萬六千八百二十五圓此公債証書ノ利子

一ヶ年五分金三千三百四十一圓二十五錢ト爲ル

○第二十五章公債証書 ○第三節金祿公債証書發行條例



右比較九千九百圓ノ方利子九十一圓二十五錢ノ過ト成ル然ルハ  
壹萬圓ノ利子金額ニ超過セサルヲ以テ制限トナル故ニ九十一圓二  
十五錢ヲ引去リ利子三千二百五十圓ニ適當スル公債証書ヲ下渡ス  
ヲ以テ規則トス其他右ニ類似ノ件ハ皆之ニ準ス

第四條 此公債証書ハ利子ノ差ニヨリ區別アリト云ヒ其發行スル種  
類ハ左ノ如シ

- 五圓
- 十圓
- 二十五圓
- 五十圓
- 百圓
- 三百圓
- 五百圓
- 千圓
- 五千圓

第五條 前條公債証書ヲ付與スルキニ當リテハ公債証書ニ未滿ノ端  
金ハ總テ通貨ニテ相渡スヘシ

第六條 此公債証書ノ元高ハ五年間之ヲ据置キ六ヶ年目ヨリ大藏  
省ノ都合ニ因リ毎年抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ消却シ都合三十ヶ年間  
ニ悉皆之ヲ消却ス可シ

第七條 此公債証書發行ニ付テノ順序其外トモ此條例外ノ事件ハ都  
テ新舊公債証書發行條例ノ通リナルト心得可シ

○明治九年十二月十一日

第五十二號

家祿賞典祿改制ノ儀本年(八月)第百八號ヲ以テ布告候處右ノ内舊藩廳  
ニ於テ祿券賣買差許有之從來現場賣買致シタル家祿ノ向ニ限リ其高  
ノ多寡ニ不拘總テ十ヶ年分ノ金高公債証書ヲ以テ一時ニ下賜來明治  
十年ヨリ年一割ノ利息下渡候條右元金消却利金下渡方等ノ儀ハ金祿  
公債証書發行條例ノ通可相心得此旨布告候事

○布達 大藏省

○明治十三年五月三十一日  
甲第七十一號

○第二十五章公債証書 ○第三節金祿公債証書發行條例



金祿公債証書ノ内五拾圓ニ拾五圓拾圓等ノ証書多分所持致居候者ハ枚數相當ニ不便利ノ趣ニ相聞候コ付今般右三種ノ証書ニ限リ所持高額ノテ五百圓ニ滿ル分ハ五百圓証書ト交換差許候條志願ノ者ハ明細書へ本証書相添へ管轄廳へ可願出最モ手数料トシテ五百圓証書一枚コ付金拾一錢宛上納可致此旨布達候事  
但本文布達候コ付テ管轄廳ニ於テ取扱方ハ明治九年(七月)當省甲第十五號布達ノ通可相心得候事

○達 大藏省

○明治十三年九月廿五日  
乙第三十三號 一八二一年  
金祿公債利子渡ノ季節ニ臨ミ(利子渡前月ハ越前高表届出後)本年甲第七拾號布達ニ依テ五拾圓以下ノ証書五百圓証書ト交換ノ儀出願

分ハ該季ノ利札所有者ニ於テ切斷爲致候上交換可申出此旨相達候事  
但ハ該利金ハ切斷ノ利札ト引替可相渡儀ト可心得事

○達 司法省

○明治十二年二月二十九日  
丁第六號  
公債証書利子下渡期限中讓渡約定ノ儀別紙ノ通リ太政官へ相伺候處朱書ノ通リ御裁令有之候條爲心得此旨相達候事

別紙  
太政官へ伺(明治十一年十二月十三日)  
本年第二十六號布告公債証書讓渡見合期限中甲乙ノ間當時公ケノ手續ヲ爲スハキノ約定ニテ該証書ニ讓渡証書ヲ添へ交付セシ者ハ固ヨリ其効力有スヘキト存候抑モ該



布告ノ某月ヨリ某月迄見合スルノ趣旨ハ現ニ讓渡賣買等致候テ  
 ハ利子下渡ノ際ニ在ミ錯雜ヲ生スヘキ恐レアルコト付唯々其手續ヲ見  
 合スヘントノ旨意ナラン殊ニ本年第二十五號公布ヲ以テ賣買等ノ禁  
 ヲ解カレタル以上ハ右甲乙ノ如キ契約ヲ禁セラレタルモノニ無之  
 ハ疑ヲ容レサルモノト相考候ヘル爲念一應相伺置度候條至急裁可ヲ  
 仰ク

朱書御指令(明治十二年一月十七日)

伺之通

○第四節 起業公債証書發行條例

○布告

○明治十一年四月三十日  
 第七號

今般全國中公益ノ事業興ノ物産繁殖ノ道ヲ開キ内外ノ商賣ヲ盛ニ  
 スル爲メ新タニ壹千貳百五十萬圓ノ内國債ヲ起シ其費用ニ供スヘキ  
 ニ被決定右募債方一切大藏卿ニ御委任相成候條此旨布告候事  
 但シ詳細之儀ハ大藏卿ヨリ可及布達候事

○布達 大藏省

○明治十一年五月一日  
 甲第十三號

今般内國債募集ノ儀ニ付キ本年(四月)太政官第七號布告ノ旨趣ニ因リ  
 起業公債証書發行條例別冊ノ通相定メ施行セシメ候條此旨布達候事  
 起業公債証書發行條例

此公債ハ明治十一年(四月)太政官第七號布告ノ旨趣ニ基ツキ要用  
 ノ金額ヲ募集スル爲メ起ス所ニシテ是ヲ大日本政府ノ公債トシ

○第二十五章 公債証書 ○第四節 起業公債証書發行條例



テ各債主へハ此公債証書ヲ交付シ年限ヲ定メテ之ヲ償却スルニ付大藏省ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

第一條 (公債証書ノ元高種類並ニ利息ノ制限ヲ示ス)

第一節 此公債ノ元高ハ壹千貳百五十萬圓ニシテ年六分(百分ノ六)ノ利付トシ其元金ハ二箇年間据置キ三ヶ年目(即チ明治十三年)ヨリ向二十三年ヲ限り(即チ明治三十五年迄)毎年大藏省ノ都合ヲ以テ(第四條ニ掲グル)抽籤ノ方法ヲ用ヒ之ヲ拂戻スヘシ而シ其利息ハ(第三條第二節ノ但書并ニ第四節ノ分ヲ除キ)募金拂込ニ替濟ノ後ヨリ明治三十五年迄毎年六月十二月ノ兩度ニ之ヲ拂渡スヘシ(本文金額ハ總テ大藏省ノ都合ニ依リ金銀貨又ハ紙幣ヲ以テ之ヲ下渡スヘシ)但シ明治十三年ヨリ抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂戻スニ當テハ年六分ノ利息月割(抽籤十五日以前ニ係ルハ前月迄テ分十六日以後ニ係ルハ半々月分下渡スヘキモノトス)ヲ以テ右抽籤法ヲ行ヒシ時

マ 送分下渡スル公債証書

第二節 此公債証書面ノ金高ハ五百圓百圓五拾圓ノ三種ニ區別シ利足ノ小札付キトス

但シ本文ノ利札ハ每半年利息渡ノルニ其渡方ヲ取扱フ銀行等ニ切取リ取リ引換ニ其金額ヲ得ヘキモノトス

第二條 (公債証書授受賣買等ノコトヲ示ス)

第一節 此公債証書ハ(第六條ニ掲グル)記名ニ變更スル分ヲ除キ(所有主ノ名ヲ記サス故ニ書換又ハ管廳ノ捺印ヲ受クル等ノ手續ナクシテ授受賣買等(外國人ヲ除ク)外)各自ノ隨意タルヘシ

第三條 (募債並ニ出金等ノ手續概略ヲ示ス)

第一節 此公債ノ募集方並ニ元利金ノ渡方トモ都テ第一國立銀行並ニ三井銀行ニ委任シテ取扱ハシムルカ故ニ申込ノ手續引受ノ實高



期限場所及ハ利息並ニ元金ノ渡方其他必要ノ件々ハ右兩銀行本店  
 若クハ支店及其取引中間等ヨリ追テ新聞紙等ヲ以テ廣告ニ及フ可シ  
 第二節 募リニ應シ出金スルノ時期ハ都合四度ト定メ最初引受方申  
 込ノ節手付金ヲ拂込マシメ其後ハ第一第二第三ト割合ヲ以テ順次  
 ニ出金セシムルモノトシ其時日ハ右兩銀行等ヨリ廣告ス可シ  
 但シ(明治十一年七月四日大藏省甲第二十三號布達ヲ以テ但書左  
 之通改正ス)  
 但シ第三割拂マテノ利息ハ其出金高ニ準シ年六分ノ割合ナル月  
 割ヲ以テ之ヲ拂渡ス可シ  
 第三節 右四度ノ内手附金拂込ノ節ハ該銀行ノ受取書ヲ與ヘ第一割  
 拂ノ拂込ニハ右受取書ト引換ニ假証券ヲ與ヘ第二割拂ニハ新假証  
 券ヲ以テ舊假証券ト取換ヘ第三割拂ノ拂込濟ニ至リ此公債証券  
 ヲ假証券ト引換ニ交付ス可シ

但シ公債証券ノ種類ハ大藏省ノ都合ニ依リ之レヲ交付ス可シ  
 第四節 (明治十一年七月四日大藏省甲第二十三號布達ヲ以テ第二節  
 但書ノ割註「拂込十五日云々」ノ四十字ヲ移シテ本節「月割」ノ下ニ挿入ス)  
 手付金又ハ第一第二第三割拂ノ拂込金トモ都合ノ其定期ノ時日ニ先  
 ヲ入金スル者ハ其高ニ對シ年六分ノ割合ナル利息月割拂込十  
 五日以前ニ係ルハ半ヶ月分十六日以後ニ係ルハ翌月ノ分ニ立テテ  
 計算スルモノトスヲ以テ入金ノ内ヨリ割引シテ債主ヘ拂渡ス可シ  
 第五節 右ノ如ク四度ニ配賦シテ拂込マシムルニ付テハ若シ初度ノ  
 手付金相濟ニ更ニ第一割拂若クハ第二第三割拂出金ノ定期ヲ愆マ  
 ツ者ハ其以前差出シタル金額ハ當人ノ損失ニ歸セシメテ返與セサ  
 ルヘシ  
 第六節 出金未タ皆濟ニ至ラス此公債証券ヲ受取テサル以前タリト  
 モ當人ノ都合ニ依リ第一割拂ヨリ交付シタル假証券ヲ授受買賣費



入書入ニスルハ(外國人ヲ除クノ外)勝手タルヘシ尤モ授受賣買ノ節  
ハ其証券ノ裏面ニ讓渡人(又ハ賣主)ノ姓名住所ト讓受人(又ハ買主)  
ノ姓名住所トヲ記載シ且ツ調印スルモノトス

但シ此讓受人(又ハ買主)コテ其次ノ割拂出金ヲ愆期スルハ本條  
第五節ノ通タル可シ

第七節 若シ申込ノ出金高募集ス可キ見込高ヨリ超過スルハ該銀  
行コテ之ヲ總体ノ申込高ニ割付ケテ平等ニ減却シ而シテ其手付金ノ  
過剩トナル分ハ第一割拂ノ拂込金ニ廻スヘシ尤モ其時ノ都合ニ依  
テハ別ニ適宜ノ方法ヲ設ケテ之ヲ減却スルコトモアル可シ

第四條 (抽籤ノ手續概略ヲ示ス)

第一節 毎年抽籤ヲ以テ此公債ノ拂戻シヲ定ムルニハ此公債ヲ取扱  
フ銀行本店ニ於テ其年ノ十月中該地方身柄ノ人コテ此公債証券(無  
記名記名トモ)ヲ所持スル者五人以上ヲ撰ミ大藏省國債局ノ官員ト

其地方廳ノ官員各兩名以上立會ノ上抽籤ヲ以テ其年ニ拂戻スベキ  
証券ノ記號番號ヲ公定シ中リ籤ノ記號番號ハ速ニ新聞紙等ヲ以テ  
廣告スヘシ

第五條 (証券ノ毀損紛失盜難流燒失等ノ心得方ヲ示ス) (圈点ヲ  
字ハ明治十一年七月四日大藏省甲第二十  
三號布達ヲ以テ追加セラレタルモノニ係ル)

第一節 此公債証券ハ自然垢付或ハ少々ノ損等アルトモ金高及ヒ主  
要ノ印部等ニ損害ナシ真正ノ証券タルヲ保認スヘキ分ハ當然ノ規  
則ニ隨ビ元利金ノ渡方ヲ爲ス可シ尤モ過失コテ此公債証券ノ一部  
分ヲ燒損シ又ハ金高及ヒ主要ノ印部等ヲ毀損シ或ハ之ヲ見認メ難  
キ程ノ墨附等アレハ速ニ其手續書ヲ添ヘテ兩銀行ノ本店又ハ大坂  
ニ在ル支店ニ持參シテ引換ヲ乞フヘシ而銀行ハ其事實ヲ承明シテ  
後々之ヲ大藏省ヘ具申シテ此引換ヲ爲スヘシ尤モ大藏省ニ於テハ  
其事實ハ勿論該証券面ニ金高番記號ノ部分必ス判然存在シ真正ノ



公債証書ニ相違ナシト見認ムル分ハ引換ヲ爲スヘシ  
但シ此引換ヲ乞フニハ本人ヨリ相當ノ手数料ヲ銀行ニ拂フヘシ  
○明治十一年七月四日大藏省甲第二十三號布達ヲ以テ左ノ通第二節  
及ヒ第三節ヲ追加ス

第二節 此公債証書紛失盜難又ハ流焼失ニ罹ル分ハ所有主ニ於テ共  
事實ヲ審明シ証書ノ記號番號金高枚數及ヒ所有トナリシモノノ手續  
等詳細相認メ地方管廳ヲ經テ大藏省ニ届出置キ償却年限ノ末期ニ  
至ル迄該証書終ニ顯出致サス全ク消滅セシニ相違ナキニ於テハ該  
証書ニ對シテ積リタル利息元金トモ一同ニ之レヲ拂渡スヘシ

第三節 前事届出ノ後テ該証書顯出シ而シテ未タ犯罪人ノ手ニ在ル  
カ或ハ犯罪ノ情ヲ知リ轉受セシモノカ或ハ情ヲ知ラストモ思惠(貨  
幣又ハ物品ヲ渡サスシテ受取ルノ類)ノ讓與ニ係ルモノハ原所有主  
ニ於テ之ヲ取戻スコトヲ得ヘシ

但シ第二節ノ場合ニ於テ事實判明致シ難キトハ都テ法官ノ裁決  
ニ付シ相當ノ處分ニ及フコトアルヘシ

第六條 (記名公債証書ニ變改スル手續并ニ變改セシ以後ノ規則  
ヲ示ス)

第一節 此公債証書ハ授受賣買等ヲ便ニスル爲メ本來無記名ナレド  
所有主ノ請願ニ依リテハ之ヲ變改シテ更ニ記名証書ト爲スコトヲ得  
ヘシ其變改ノ手續并ニ規則等ハ左ノ如シ

第二節 無記名証書ヲ記名ニ變改スルニハ証書ヲ引換ニルニ非ラス  
又証書本紙ニ記名スルニ非ラスシテ本條第四節ノ取扱ヲ以テ之ヲ  
定ムルモノトス

第三節 右記名ヲ請願スルニハ第三條最後出金ノ定期ヨリ七八十日  
乃至五六十日以前ニ其旨ヲ此公債ヲ取扱フ兩銀行ノ本支店若クハ  
取引仲間等ニ申込ムヘシ右銀行(支店並ニ取引仲間等ニ申込ミタ



ル分ハ之ヲ取纏メ請願人ノ姓名住所并ニ入用証書ノ金高等ヲ詳記シ大藏省へ具申シ記名極印濟ニノ証書ヲ(記名紙相添へ)受取り之ヲ其本人ニ交付シ本人ヨリ更ニ之ヲ管廳へ持出テ記名其他次節ノ手續ヲ受クヘシ

第四節 前節ノ如ク大藏省へ具申ノ上ハ同省ニ於テ該証書ニ記名シタル極印ヲ押シ之ヲ簿冊ニ登記シ置キ再ヒ之ヲ其銀行ニ送附シテ其本人へ交付シ本人ヨリ管廳へ持出ルモノトス管廳ニ於テハ該証書ノ種類金高記號番號枚數及ヒ所有主ノ姓名住所年月日等ヲ簿冊ニ登記シ該証書ニ記名紙ヲ糊付シ該廳ノ繼印ヲ爲シ所有主ノ姓名住所ヲ記入シ該廳ノ割印及ヒ公債掛ノ檢印ヲ捺シテ再ヒ之ヲ所有主へ付與ス可シ

但シ一旦無記名証書ヲ引受ケ置キ追テ記名ニ改メント欲スル者該証書ニ其種類金高記號番號枚數ノ目錄書及ヒ願書ヲ添へ管

廳へ申立ツヘシ管廳ヨリハ願人へ証書ノ受取書ヲ渡シ置キ之ヲ大藏省へ具申シテ極印濟ニノ証書並ニ記名紙ヲ受取り成規ノ如ク再ヒ之ヲ其本人へ付與スルノ手續ヲ爲スモノトス尤モ記名紙ハ地方官ノ見込ヲ以テ豫メ之ヲ大藏省ヨリ受取り置クモ適宜ナルヘシ

第五節 前節ノ如ク無記名証書ヲ記名証書ニ變改シタル上ハ之ヲ授受賣買シ或ハ引當物ニ爲シ又ハ紛失盜難及ヒ流失等ノ虞ハ明治八年(五月)太政官第九十五號布告改正新舊公債証書發行條例第六條第七條第八條第九條第十條ヲ適用スヘシ尤モ右條例ヲ此記名公債証書ニ適用スル場合ニ於テハ右條例中換用ノ文字並ニ不用ノ廉々左ノ如シ

但シ元利金渡方等ノ手續ハ無記名公債証書ト同様ナルモノトス右條例第六條ヨリ第十條迄ノ内ニ「新舊公債証書共」並ニ「新舊公債証



書「トアルハ都テ」此記名公債証書」ト改ム  
 同第六條第一節但書ノ其都度大藏省へ届出可シ」ヲ「置ク可シ」ニ改ム  
 同條第二節ニ「証書裏面へ形ノ通り」裏面雛形」及ヒ同條第三節ノ「証書裏面へ形ノ如ク（裏面雛形）」ハ都テ「記名紙へ末ニ附スル雛形ノ通り」ト改ム  
 同條第三節ノ「大藏省へハ云々」ノ十五字ヲ「置クへシ」ニ改ム  
 同條第四節ノ但書ヲ削除ス  
 同條第五節並ニ第七節第八節ノ「証書へ割印」ハ都テ「記名紙へ割印」ニ改ム  
 同條第七節ノ「且大藏省へハ一月分翌月五日迄」云々」ノ二十七字ハ不用  
 同條第九節ノ「就テハ年々元利金云々」ノ十八字ヲ「尤モ年々元利金拂方ハ此公債ヲ取扱フ銀行等ニテ拂渡スへシ」ニ改ム  
 同條第十節ノ「年々元利拂及」ノ六字並ニ「年々元利受取或ハ」ト兩所ニ在ル都合十六字及ヒ第十二節ヲ削除ス  
 同條同節中ノ「前條」ヲ「第七節」ニ改ム

同第七條第一節ノ「其所持人へ下渡スへシ云々」ノ四十七字ヲ「何人タリトモ其持參人へ（外國人ヲ除クノ外）相渡スへシ」ニ改ム  
 同第八條割註二十一字ヲ「此公債証書記名繼足ノ手續ヲ明ニス」ニ改ム  
 同條第一節ノ「裏面記名ノ場所」ヲ「記名紙ノ餘枠」ニ改メ「証書ノ繼足」ヲ「記名紙ノ繼足」ニ改ム  
 同第九條第一節ノ但書ヲ削除ス  
 同條第二節ノ「地方管廳ニテハ即右ノ旨ヲ云々」ノ六十三字ヲ削除ス  
 同條第三節ノ「公布」ヲ「布達」ニ改ム  
 同條第四節ノ「元利」ヲ「利金」ニ改ム  
 第七條（証書贗造等ノ處分ヲ示ス）  
 第一節 此公債証書（無記名記名トモ）ヲ私ニ割去リ又ハ切裂キ又ハ塗抹シ孔ヲ穿テ糊附ニスル等ノ事ヲ爲スヘカラス若シ犯ス者アレハ裁判ノ上其金高十倍以下ノ罰金ヲ命スヘシ



第二節 此証書ヲ贋造シ又ハ人ヲシテ贋造セシメ又ハ人ノ贋造スルヲ助ケ又ハ贋造ト知リテ通用シ又ハ証書ノ圖畫文字ヲ變換シ又ハ人ヲシテ變換セシメ又ハ變換セシモノト知テ之ヲ通用シ其他似寄ノ板版紙品等ヲ所持スル者ハ都テ裁判ノ上法ニ處スベシ

第八條

第一節 政府ノ都合ニ依リ要用ノコトアレハ利息及ヒ償却年限ヲ除クノ外此條例ヲ增補シ又ハ改正スヘシ

第二節 右增補改正等アルモハ速ニ其旨趣ヲ公告スヘシ

明治十一年五日

大藏省

○第五節 中山道鐵道公債証書條例

○布告

○明治十六年十二月廿八日

第四十七號

中山道鐵道公債証書條例左ノ通制定ス

中山道鐵道公債証書條例

第一條 中山道鐵道公債証書ハ群馬縣下上野國高崎ヨリ岐阜縣下美濃國大垣ニ至ルマテ中山道ニ沿ヒ及ヒ大垣ヨリ三重縣下伊勢國四日市ニ至ルマテ鐵道ヲ敷設シ及ヒ其事業ヲ經營スルノ資金ニ充ツルカ爲メ發行スルモノトス(圖點二十一字ハ十七年第十七號ノ布告ヲ以テ追加シタルモノナリ)

第二條 此公債証書發行高ハ二千萬圓ヲ限リ大藏卿工業ノ都合ヲ計リ漸次之ヲ發行スルコトヲ得其發行ノ手續ハ大藏卿時々之ヲ定ムルモノトス

第三條 此公債証書ハ無記名利札附コシテ千圓五百圓百圓ノ三種トス

第四條 此公債ノ利子ハ年七分トス

第五條 此公債証書引受ノ申込高大藏卿ノ需用スル金高ヨリ超過ス

○第二十五章公債証書(第五節中山道鐵道公債發行條例



ルキハ其超過高ニ比例シ各申込人へ對シ証書渡高ヲ減少スルノモ  
トス但價格ヲ定メテ發行シタル場合ニ於テ其價格以上ニテ申込ム  
者ニハ其渡高ヲ減少セサルヘシ其價格ハ大藏卿之ヲ定ムル者トス

第六條 此公債証書ノ見本ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第七條 此公債証書ノ元金ハ証書發行ノ年ヨリ五ヶ年据置其翌年ヨ  
リ向フ二十五ヶ年ヲ限り毎年抽籤法ヲ以テ償還スヘシ但償還ノ金  
高ハ抽籤ノ日ヨリ少クハ六十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スル者トス  
此公債ノ利子ハ元金償還ニ至ルマテ毎年六月十二月ノ兩度ニ拂渡  
スモノトス但元金ヲ償還スルハ月割ヲ以テ右抽籤ヲ行フ月マテ  
ノ利子ヲ拂渡スヘシ

此公債ノ元利金額ハ總テ通貨ヲ以テ任拂フモノトス

第八條 此公債ノ利子ハ其元金拂込ノ日ニ從ヒ各月十五日前後ヲ以  
テ區別シ十五日以前ナレハ其下半月分ヨリ十六日以後ナレハ其翌

月分ヨリ拂渡スモノトス

第九條 此公債ノ元金償還利子拂渡ノ事務ハ總テ日本銀行ヲシテ之  
ヲ取扱ハシムヘシ其期限及ヒ場所等ハ抽籤ノ日ヨリ少クハ三十日  
以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第十條 此公債ノ利子ハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ利札ヲ切  
取リ之ト引換ニ拂渡スヘシ

第十一條 此公債証書ハ何人ニテモ授受賣買スルコトヲ得

第十二條 此公債ノ元金償還ノキハ日本銀行ニ於テ抽籤配賦計算ノ  
割合ヲ定メ東京横濱居住人ニテ此公債証書ヲ多額所持スルモノ拾  
名以上并大藏省國債記録兩局ノ官員五名以上立會ノ上抽籤ヲ執行  
シ其當籤証書ノ記號番號種類金高等ハ大藏卿ヨリ告示スル者トス  
第十三條 此公債証書ノ所有者其証書ヲ亡失セシハ其事由并証書  
面ノ金高記號番號及ヒ所有セシキノ手續ヲ詳記シ其亡失セシ地ノ



官廳ヲ經テ大藏省ニ届出ヘシ大藏卿ハ其証書ノ授受賣買ヲ差止ム  
ヘキ旨ヲ告示スルモノトス但發見シタル時ハ同様ノ手續ヲ以テ届  
出ベシ

亡失ノ証書ヲ發見セス其償還年限ノ末期ニ至リ証書消滅セシト認  
ム可キ場合ニ於テハ該証書ノ元利金額ヲ其届出人ヘ拂渡スヘシ

第十四條 此公債証書當籤ト爲リ元金ヲ拂渡スヘキ場合ニ於テ其証  
書ノ亡失セシコトヲ覺知シタル時ハ其當籤ノ効ヲ失フモノトス

第十五條 此公債証書汚染又ハ毀損セシ時ハ日本銀行本支店又ハ代  
理店ヲ經テ証書ノ引換ヲ大藏省ヘ請求スベシ但其証書面金高記號  
番号及ヒ大藏卿ノ印章ヲ檢査シ其真正ナルヲ証認シ得ヘキモノニ  
アラサレハ引換サルヘシ此引換ヲ得タルモノハ本人ヨリ相當ノ手  
數料ヲ銀行ヘ拂フベシ

第十六條 此公債証書引換又ハ償還シキ其証書汚染毀損シ金高記號

番號及大藏卿ノ印章ヲ認メ難キモノハ其元利金トモ償還方總テ亡  
失証書ト同一タルベシ

第十七條 此公債ノ元利金受取方申出テス其拂期月ヨリ滿十五ケ年  
ヲ過ルルハ一切之ヲ償還セサルベシ

第十八條 政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ利子ノ割合及元金償還  
年限ヲ除クノ外此條例ヲ增補改正スルコトアルヘシ

### ○告示 大藏省

○明治十七年一月廿三日  
第七號

明治十六年(十二月)第四十七號布告中山道鐵道公債証書條例ニ據リ公  
債証書ノ内額面五百萬圓ヲ發行シ其手續左ノ通相定ム

中山道鐵道公債証書發行手續

○第二十五章公債証書○第五節中山道鐵道公債証書條例



第一條 發行公債証書ノ種類ハ大藏省ノ都合ヲ以テ交付スル者トス

第二條 發行公債証書ノ價格ハ額面金高百圓ニ付キ金九拾圓トス

第三條 公債証書引受方望ノ者ハ本年二月廿日迄ニ其引受ケント欲  
スル証書ノ金高及ヒ價格並ニ其住所氏名ヲ記シ日本銀行本支店又  
ハ代理店ハ申込ムベシ

但代理店ハ日本銀行ヨリ廣告セシムベシ

第四條 公債証書引受方申込ムモノハ証書額面金高百圓ニ付金拾圓  
宛保証金トシテ其申込ヘキ店ヘ拂込ムベシ

第五條 日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テハ公債証書引受方申込人  
ヨリ保証金拂込ミアルルハ受取証書ヲ渡スヘシ但保証金受取証書  
ハ賣買スルヲ得ス

第六條 大藏省ニ於テハ本年三月三十日マテニ各申込人ヘ渡スヘキ  
証書ノ高ヲ定メ日本銀行ヨリ通知セシムルニ付其引受高ニ對スル

金額ノ内保証金ヲ引去リタル跡金ハ第一回ハ同四月三十日迄第二  
回ハ同六月十五日迄ニ半額宛ヲ拂込ムヘシ但第二回ノ分チ第一回  
ニ一時ニ拂入ルモ妨ナキモノトス

第七條 日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テハ前條ノ拂込アルルハ仮  
証書ヲ作り保証金受取証書及ヒ現金ト引換ニ之ヲ渡スヘシ但假証  
書ハ官府并日本銀行ヘ抵當ニ差入ル、ヲ除ク外賣買スルヲ得ス

第八條 本証書ハ退テ日本銀行ヨリ假証書ト引換ニ各引受申込人ヘ  
交付セシムルモノトス

第九條 第六條ノ拂込金ハ期日迄ニ其申込店ヘ出金セサルルハ第四  
條ノ保証金及ヒ第一回拂込金ハ當人ノ損失ニ販セシメテ返與セサ  
ルモノトス

第十條 若シ保証金受取証書又ハ假証書ヲモ失セシモノアラバ其証  
書ノ番記號及ヒ所持人ノ住所氏名等ヲ記シ其申込タル店ヘ速ニ報



知スヘシ

第十一條 日本銀行本支店及ヒ代理店ニ於テ本人ニ就キ保証金受取証書又ハ假証書亡失ノ手續ヲ証明セシメ且兩人以上ノ証印アル証書ヲ以テ其事由ヲ保証セシメテ代リ証書ヲ相渡スヘシ但舊証書ハ無効ノ旨新聞紙等ニテ世上ヘ廣告スヘシ

第十二條 保証金及ヒ拂込ノ金高ニ對スル利子ハ年七分ノ割ヲ以テ其拂込ノ日ニ從ヒ各月十五日前後ヲ以テ區別シ十五日以前ナレハ其下半年分ヨリ十六日以後ナレハ其翌月分ヨリ拂渡スモノトス  
第十三條 保証金及ヒ跡金ノ利子公債証書付屬利札額半分ニ滿タサル利金ハ本証書交付ノ節拂渡スモノトス

○明治十七年五月十三日  
第五十七號

明治十六年(十二月)第四十七號布告中山道鐵道公債証書條例ニ據リ公

債証書ノ内更ニ額面五百萬圓ヲ發行シ其手續左ノ通相定ム

中山道鐵道公債証書發行手續

第一條 發行公債証書ノ種類ハ大藏省ノ都合ヲ以テ交付スル者トス  
第二條 發行公債証書ノ價格ハ額面金高百圓ニ付金九拾圓トス  
第三條 公債証書引受方望ノ者ハ本年六月十日迄ニ其引受ケント欲スル証書ノ金高及ヒ價格并ニ其住所氏名ヲ記シ日本銀行本支店又ハ代理店ヘ申込ムヘシ

但代理店ハ日本銀行ヨリ廣告セシムヘシ

第四條 公債証書引受方申込ムモノハ証書額面金高百圓ニ付金拾圓宛保証金トシテ其中込ヘキ店ヘ拂込ムベシ

第五條 日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テハ公債証書引受方申込人ヨリ保証金拂込ミアルトハ受取証書ヲ渡スヘシ但保証金受取証書ハ買買スルヲ得ス

○第二十五章公債証書○第五節中山道鐵道公債証書條例



第六條 大藏省ニ於テハ本年七月十日マテニ各申込人へ渡スヘキ証書ノ高チ定メ日本銀行ヨリ通知セシムルニ付其引受高ニ對スル金額ノ内保証金ヲ引去リタル跡金ヲ第一回ハ同七月三十日迄第二回ハ同八月三十日迄ニ半額宛チ拂込ム可シ但第二回ノ分チ第一回ニ一時ニ拂入ルモ妨ケナキモノトス

第七條 日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テハ前條ノ拂込ミアルキハ假証書ヲ作り保証金受取証書及ヒ現金ト引換ニ之ヲ渡スヘシ此証書ハ賣買スルヲ許サズ但官府并日本銀行へ抵當ニ差入ル、ヲ得第八條 本証書ハ追テ日本銀行ヨリ假証書ト引換ニ各引受申込人ニ交付セシムルモノトス

第九條 第六條ノ拂込金ハ期日迄ニ其申込店へ出金セサルキハ第四條ノ保証金及ヒ第一回拂込金ハ當人ノ損失ニ歸セシメテ返與セサルモノトス

第十條 若シ保証金受取証書又ハ假証書ヲ亡失セシモノアラハ其証書ノ番記號及ヒ所持人ノ住所氏名等ヲ記シ其申込タル店へ速ニ報知スヘシ

第十一條 日本銀行本支店及ヒ代理店ニ於テ本人ニ就キ保証金受取証書又ハ假証書亡失ノ手續ヲ証明セシメ且兩人以上ノ証印アル証書ヲ以テ其事面チ保証セシメテ代リ証書ヲ相渡スヘシ但舊証書ハ無効ノ旨新聞紙等ニテ世上へ廣告スヘシ

第十二條 保証金及ヒ拂込ノ金高ニ對スル利子ハ年七分ノ割ヲ以テ其拂込ノ日ニ從ヒ各月十五日前後ヲ以テ區別シ十五日以前ナレハ其下半年分ヨリ十六日以後ナレハ其翌月分ヨリ拂渡スモノトス  
第十三條 保証金及ヒ跡金ノ利子公債証書付屬利札額半ケニ滿クサル利金ハ本証書交付ノ節拂渡スモノトス

○第六節 金札引換無記名公債証書條例

○第二十五章公債証書○第六節金札引換無記名公債証書條例 七百六十五



○布告

○明治十六年十二月廿八日

第四十八號

金札引換無記名公債証書條例左之通制定シ明治十三年(十月)第四十七號布告金札引換公債証書條例第三條ヲ停止ス

金札引換無記名公債証書條例

第一條 金札引換無記名公債証書ハ政府發行ノ紙幣ヲ交換支消スル爲メ發行シ其元利金共銀貨ヲ以テ仕拂フモノトス

此公債証書ト交換シタル紙幣ハ大藏省ニ於テ之ヲ燒却スルモノトス  
第二條 此公債証書ハ望人ノ申込ニ任セ大藏卿隨意之ヲ發行スルモノトス但大藏卿ハ財政ノ都合ヲ計リ其中込ヲ拒ムコトアルヘシ

第三條 此公債証書ハ無記名利札付ニシテ千圓五百圓百圓ノ三種トス

第四條 此公債ノ利子ハ年六分トス

第五條 此公債証書ハ証書額面百圓ニ付發行價格紙幣百圓ト定ム此証書ヲ引受ケンコトヲ望ムモノハ隨時日本銀行本支店又ハ代理店ヘ申出ヘシ

第六條 此公債証書ノ見本ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第七條 此公債ノ元金ハ其証書交付ノ年ヨリ五ケ年据置其翌年ヨリ向フ三十ケ年ヲ限り毎年抽籤法ヲ以テ償還スヘシ但償還ノ金高ハ抽籤ノ月ヨリ少クモ六十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス  
此公債ノ利子ハ元金償還ニ至ルマテ毎年五月十一月ノ兩度ニ拂渡スモノトス但元金ヲ償還スルモハ月割ヲ以テ右抽籤ヲ行フ月マテノ利子ヲ拂渡スヘシ  
滿期ニ至リ償還ノ証書ニ屬スル利子ハ償還ノ月マテノ分ヲ拂渡スモノトス

第八條 此公債ノ利子ハ其元金拂込ノ日ニ從ヒ各月十五日前後ヲ以



テ區別シ十五日以前ナレハ其下半月分ヨリ十六日以後ナレハ其翌月分ヨリ拂渡スモノトス

第九條 此公債ノ元金償還利子拂渡ノ事務ハ總テ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシムヘシ其時期及場所等ハ抽籤ノ日ヨリ少クモ三十日以前ニ大藏卿ヨリ告示スルモノトス

第十條 此公債ノ利子ハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ利札ヲ切取リ之ト引換ニ拂渡スヘシ

第十一條 此公債証書ハ何人ニテモ授受賣買スルコトヲ得

第十二條 此公債ノ元金償還ノキハ日本銀行ニ於テ抽籤配賦計算ノ割合ヲ定メ東京横濱居住人ニテ此公債証書ヲ多額所持スル者十名以上并大藏省國債記録兩局ノ官員五名以上立會ノ上抽籤ヲ執行シ其當籤証書ノ記號番號種類金高等ハ大藏卿ヨリ告示スルモノトス  
第十三條 此公債証書ノ所有者其証書ヲ亡失セシキハ其事由并証書

面ノ金高記号番號及所有セシキノ手續ヲ詳記シ其亡失セシ地ノ官廳ヲ經テ大藏省ニ届出ヘシ大藏卿ハ其証書ノ授受賣買ヲ差止ムヘキ旨ヲ告示スルモノトス但發見シタルキハ同様ノ手續ヲ以テ届出ヘシ

亡失ノ証書ヲ發見セズ其償還年限ノ末期ニ至リ証書消滅セシト認ムヘキ場合ニ於テハ該証書ノ元利金額ヲ其届出人ヘ拂渡スベシ

第十四條 此公債証書當籤ト爲リ元金ヲ拂渡ス可キ場合ニ於テ其証書ノ亡失セシコトヲ覺知シタルキハ其當籤ノ効ヲ失フモノトス

第十五條 此公債汚染又ハ毀損セシキハ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經テ証書ノ引換ヲ大藏省ヘ請求スヘシ但其証書面金高記號番號及大藏卿ノ印章ヲ檢査シ其真正ナルヲ証認シ得ヘキモノニアラサレハ引換サルヘシ此引換ヲ得タルモノハ本人ヨリ相當ノ手数料ヲ銀行ヘ拂フヘシ



第十六條 此公債証書引換又ハ償還ノキ其証書汚染毀損シ金高記號  
番號及大藏卿ノ印章ヲ認メ難キモノハ其元利金トモ償還方總テ亡  
失証書ト同一タルヘシ

第十七條 此公債ノ元利金受取方申出テス其拂期月ヨリ滿十五ケ年  
ヲ過クルルハ一切之ヲ償還セサルヘシ

第十八條 政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ利子ノ割合及元金償還  
年限ヲ除クノ外此條例ヲ增補改正スルコトアルヘシ

○第二十六章 質

○布告

○明治十七年三月二十五日  
第九号

質屋取締條例別冊ノ通制定シ明治十七年五月十五日ヨリ施行ス

右奉 勅旨布告候事

質屋取締條例

第一條 質屋營業ヲ爲ス者ハ管轄廳東京府ハノ免許ヲ受クベシ警視廳

第二條 質屋ハ質物臺帳ヲ備ヘ其紙數ヲ記シ所轄警察署ノ檢印ヲ受  
クヘシ

第三條 質物臺帳ニハ警察官ニ於テ質物貸金質入主及質入受戻入換  
ノ年月日ヲ調査スルニ差支ナキ様記載スヘシ但証人ヲ要スルトキ  
ハ質入主及證人ノ實印ヲ押捺セシメ置クヘシ

第四條 身元詳ナラサル者ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス但身元詳ナル  
者証人タルトキハ此限ニアラス

第五條 十五年未滿ノ者白痴風癪者及雇人雇主ノ家ヨリ質物ヲ取ル  
コトヲ得ス但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者証人タルトキハ此  
限ニアラス



官廳町村學校病院社寺會社ノ印章記号アル物品ハ其質入シ得ヘキ  
コトヲ証明スル証人二名以上アルコト非サレハ之ヲ質物ニ取ルコト  
ヲ得ス

前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニ依リ元利金ヲ償フコト無ク  
質物ヲ取戻サル、コトアルベシ

第六條 盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處  
斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ質ニ取り又ハ寄藏シタルトキハ直ニ所  
轄警察署ニ届出ヘシ

第七條 贓物ノ疑アル物品又ハ身柄不相應ト認メタル物品ヲ持來ル  
者アルトキハ直ニ所轄警察署又ハ巡行ノ警察官巡查ニ密告スヘシ

第八條 流質物ヲ賣拂ハントスルトキハ五日以前ニ其物品目錄ヲ所  
轄警察署ニ差出スヘシ

第九條 流質物ヲ賣拂ヒタルトキハ警察官ニ於テ其物品代價及買主

ヲ調査スルニ差支ナキ様流質物賣拂帳ニ記載スヘシ

第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ  
附記スヘシ

第十一條 品觸到達以後一年內ニ類似ノ物品ヲ質ニ取り又ハ寄藏シ  
タルトキ若クハ其以前ノ質物及寄藏品中ニ類似ノ物品ヲ發見シタ  
ルキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第十二條 質物臺帳流質物賣拂帳及品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若  
クハ失シタルキハ直ニ所轄警察署ニ届出ヘシ

第十三條 警察官ハ何時タリトモ質屋ノ店舖ニ臨ミ質物及帳簿ノ檢  
査ヲ爲シ時宜ニ依リ其質物ヲ差押ヘ又ハ時々帳簿ヲ差出サシメ之  
ヲ檢査スルコトアルヘシ質屋ハ之ヲ拒ムコト得ス

第十四條 此條例ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ二圓以上  
二百圓以下ノ罰金ニ處ス



第十五條 此條例ヲ一年內ニ再犯シタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

第十六條 此條例ヲ犯シタル者コハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十七條 營業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第十八條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事東京府縣ヲ除ク令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ヘシ

### ○第二十七章 古物商

#### ○布告

○明治十六年十二月廿八日

第五十號

古物商取締條例別冊ノ通制定シ明治十七年二月一日ヨリ施行ス

#### 右奉 勅旨布告候事

##### 古物商取締條例

第一條 古物商トハ古道具古本古書畫古着古銅鐵價金銀ヲ賣買スル營業者ヲ云フ

袋物屋小間物屋鼈甲屋時計屋飾屋箔打屋烟管屋ニシテ其營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換スル者及ヒ刀劍商ハ此條例ニ據準スヘシ

第二條 古物商ハ管轄廳東京府ハ警視廳ノ免許ヲ受クヘシ

第三條 古物商物品ヲ賣買シ又ハ交換シタル時ハ警察官ニ於テ其物品及賣主讓主ヲ調査スルニ差支ナキ様簿冊ニ記載シ且買主讓受主ヲ詳ニスルヲ得タル時ハ之ヲ記載スヘシ

第四條 身元詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換スルヲ得ス但身元詳ナル者其証人タルト又ハ警察官若クハ巡查ノ認可ヲ受ケタルキハ此限ニアラス

### ○第二十七章古物商



第五條 十五年未滿ノ者白痴風癩者及ヒ雇人ニ雇主ノ家ヨリ物品ヲ買  
 取リ又ハ交換スルコトヲ得ス但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者  
 其証人タルキハ此限コアラヌ  
 官廳町村學校病院社寺會社ノ印章記號アル物品ハ其賣却シ得ヘキ  
 一ヲ證明スル證人二名以上アルコト非サレハ之ヲ買取り又ハ交換ス  
 ルコトヲ得ス  
 前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニヨリ無代價ニテ物品ヲ取戻  
 サル、コトアルヘシ  
 第六條 古物商ハ營業者タルト否トヲ問ハス盜罪詐欺取財ノ罪又ハ  
 刑法第三百九十九條第四百一條ノ處断ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ買  
 取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏スルキハ警察官ノ許可ヲ受ク可シ違フ者  
 ハ一月以上三年以下ノ重禁錮又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ  
 處ス

第七條 古物商ハ自宅又ハ許可ヲ受ケタル市場及ヒ賣主讓主ノ居宅  
 ノ外ニ於テ物品ヲ買取り又ハ交換スルコトヲ得ス  
 第八條 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ハ身元詳ナラサル者及ヒ盜罪  
 賭博ノ處断ヲ受ケタル者ニ賣渡讓渡シ又ハ露店及ヒ路傍ニ於テ賣  
 渡讓渡スコトヲ得ス  
 第九條 古物商物品ヲ他府縣ニ運送セントスルキ又ハ他府縣ヨリ受  
 取リタルキハ其物品ノ目錄ヲ所轄警察署ニ届出ツベシ  
 警察官ハ時宜ニ依リ荷作りヲ解キ物品ヲ検査シ之ヲ差押フルコト  
 アルヘシ但費用ハ届人之ヲ擔當スヘシ  
 第十條 贓物ノ品觸アルキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附  
 記スヘシ  
 第十一條 品觸到達以後一年内ニ類似ノ物品ヲ買取り又ハ交換シ及  
 ヒ寄藏シタルトキ若クハ其以前ニ之ヲ得タルマ、所持シタルキハ



直ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ若届出テスシテ其理由ヲ辨解スルコト能ハサル者ハ第六條ノ刑ニ同シ

第十二條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル簿册及ヒ品觸寫書ハ十年間保存スベシ若亡失シタルキハ直チニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第十三條 警察官ハ何時アリトモ古物商ノ店舗ニ臨ミ物品及ヒ簿册ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ其物品ヲ差押ヘ又ハ時々簿册ヲ差出サシメ之ヲ検査スルコトアルヘシ古物商ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 第二條第三條第四條第五條第七條第八條第九條第十條第十二條第十三條ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第六條第十一條第十四條及ヒ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處断ヲ受ケタル古物商ハ管轄廳東京府ハニ於テ三月以上三年以下ノ特別取締ニ附スルコトヲ得警視廳

第十六條 特別取締ニ付セラレタル者ハ尙ホ左ノ項目ニ從フヘシ

一 物品ヲ買取り又ハ交換シタルトハ其賣主讓主ノ住所氏名年齢及

ヒ物品ノ形状徽章番号縞柄模様損所ノ類ヲ云フ 價額年月日時ヲ簿册ニ記載スヘシ

二 日出前日役後ハ物品ヲ買取り又ハ交換シ及ヒ寄藏スルコトヲ得ス

三 營業者ニアラサル者ヨリ物品ヲ買取り又ハ交換シタルトハ其物

品ヲ原狀ノ儘五日間保存スヘシ

四 物品ヲ賣渡シ又ハ交換シタルキハ其物品ノ形状價額年月日時ヲ

簿册ニ記載シ且買主讓受主ノ住所氏名年齢ヲ知り得タルトハ之

ヲ記載スヘシ

五 毎月一度物品賣買交換ノ簿册ヲ所轄警察署ニ差出シ其検査ヲ受クヘシ

六 住所ヲ移轉シ又ハ旅行シ又ハ他人ヲ宿泊同居セシメントスルキハ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ



第十七條 前條ニ違背シタル者ハ三圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス  
第十八條 特別取締ニ付セラレタル者第六條第十一條第十四條第十  
七條ニ依リ罰金ニ處セラレタル者ハ直ニ之ヲ納完セシム若シ納完  
セサル者ハ留置セラレ、トアルヘシ

第十九條 古物商一年內ニ此條例ヲ再犯シタル者ハ行政ノ處分ヲ以  
テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルヲ得

第二十條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十一條 此條例ヲ犯シテ買取リ又ハ交換シタル物品贓物ニ係ルモ

ノハ營業者ニ依ルト否トヲ問ハス警察署ニ於テ之ヲ追徴シテ被害  
者ニ還付スヘシ若シ被害者知レサル者ハ之ヲ領置シ一年ノ後官沒ス

第二十二條 商業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ  
任スヘシ

第二十三條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事東京府縣  
ヲ除ク

令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届ケ出ツヘシ

○第二十八章 印紙

○第一節 証券印稅規則

○布告

○明治十七年五月一日  
第十一號

明治七年(七月)第八十一號布告証券印稅規則別冊ノ通改正シ明治十七  
年七月一日ヨリ施行ス

但明治八年(七月)第二百二十號布告ハ同日ヨリ廢止ス  
右奉 勅旨布告候事

証券印稅規則

第一條 凡ソ財産ノ授受及ヒ契約ノ証明ニ用フル証書帳簿ハ此規則

○第二十八章印紙○第一節証券印稅規則